

奈良県感染症発生動向調査事業報告

平成 26 年 内科・小児科感染症の概要

1. 平成 26 年の流行状況

＜全国＞ インフルエンザは平成 25 年より 576,568 人（定点当たり 117.04）も増加し、A 群溶連菌咽頭炎も前年より 50,367 人（15.97）増加が見られた。ヘルパンギーナは前年より 42,293 人（13.44）の増加、伝染性紅斑も 22,229 人（7.07）の増加と、それぞれ流行していた。逆に、平成 25 年に大流行した手足口病は 219,631 人も減少し、定点当たりでも 69.92 と著名な減少であった。その他主な疾病では感染性胃腸炎が 66,299 人（21.3）の減少、水痘は 17,352 人（5.55）の減少があった。

＜奈良県＞ 奈良県でもインフルエンザが 6,768 人（定点当たり 125.33）の増加があり、前年の約 1.7 倍と多く、流行していた。ヘルパンギーナは 658 人（19.35）、A 群溶連菌咽頭炎が 653 人（19.21）、咽頭結膜熱が 419 人（12.33）とそれぞれ前年より約 1.6～2.1 倍の増加が見られた。報告数は少ないが伝染性紅斑が前年の 32 人から 125 人と約 4 倍の増加があった。また、前年に全国的に大流行した手足口病は 1,665 人（48.97）で、前年の約 1/5 に減少した。

2. 奈良県を中心とした近隣府県（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県）状況

定点当たりで全国値を上回った疾病の府県を見てみると、インフルエンザでは三重県、RS ウイルス感染症は三重県、大阪府、咽頭結膜熱は三重県、大阪府、奈良県、A 群溶連菌咽頭炎は大阪府、感染性胃腸炎は三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、水痘は兵庫県、手足口病は三重県、突発性発疹は三重県、百日咳は大阪府、ヘルパンギーナは三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県であり、伝染性紅斑と流行性耳下腺炎はすべての府県で全国を下回っていた。奈良県は咽頭結膜熱が全国（25.11）より多く 29.09 であった。和歌山県はすべての疾病で全国値を下回っていた。

3. 各疾患の月別流行状況

インフルエンザは 11 月から 5 月にかけて発生していたが、2 月が 4,412 人（定点当たり 81.70）で最も多かった。RS ウイルス感染症は 12 月が 395 人（11.62）が最多で、10 月から 1 月にかけて多かった。咽頭結膜熱は 5 月から 8 月にかけて多く発生し、6 月が 143 人（4.21）で最も多かった。A 群溶連菌咽頭炎は 5 月が 293 人（8.62）と最多であった。感染性胃腸炎で多いのは 11 月から 1 月の冬型と 4 月から 6 月にかけての夏型で、最も多かったのは 5 月の 1,514 人（44.53）であった。水痘は 12 月から 6 月にかけて多く、最多は 5 月の 174 人（5.12）であった。手足口病は前年に比べて報告数は 1 月から 5 月にかけて少なかったが、6 月から増加し始め 12 月には最も多い 120 人（3.53）であった。伝染性紅斑は 3 月から 6 月、9 月から 11 月と春と秋の 2 期に報告が多く、最多は 5 月に 20 人（0.59）であった。突発性発疹は 4 月から 12 月にかけて軽度多く見られるが、特に多発していたのは 10 月で 82 人（2.41）であった。百日咳は 7 月と 10 月にそれぞれ 1 人の報告があったのみである。へ

ヘルパンギーナは4月ごろから報告が始め10月まで続いたが、著しく報告数が多かったのは6月から8月にかけてで、最も多かったのは7月の740人(21.76)であった。流行性耳下腺炎は7月から12月にかけて多く、最多は8月の35人(1.03)であった。

4. 年齢別報告数(10歳以上は1歳平均)と世代別報告数(1歳平均)

年齢別と世代別の報告数を1歳平均に換算して疾病別に見てみた。世代は乳児期は0歳、幼児期は前期と後期に分け前期は1から2歳、後期は3歳から5歳、学童期は6歳から14歳、思春期は15歳から19歳、成人期は20歳以上とし、インフルエンザでは成人期は20歳から59歳、老人期が60歳以上とした。

小児科関連のすべての疾病は5歳以下の乳幼児期に報告数が集中していた。インフルエンザでは学童期が863.2人と多く、8歳が1178人と最多であった。RSウイルス感染症は乳児期が多く365人、そのうち乳児期の後半(7カ月~12カ月)が229人であった。咽頭結膜熱は幼児前期に173.5人と多く、1歳が200人であった。A群溶連菌咽頭炎は世代別でみると幼児期の148.4人が多いが、1歳平均でみると幼児期後半に多く、4歳の250人が最多であった。感染性胃腸炎も世代別では幼児期が731.0人と多いが、中でも多いのが乳児期前半で922.5人で、1歳が1052人であった。水痘は幼児期に多く、3歳の207人が最多であった。手足口病は乳児期前半で111.5人の報告があり、1歳が128人あった。伝染性紅斑は乳児期後半に多く、4歳が30人の報告があった。突発性発疹はほとんどが乳幼児期にある。幼児期前半に324人の報告があったが、乳児期が292人で最多であった。百日咳は乳児期後半1人と20歳以上の成人に1人の報告があった。ヘルパンギーナは乳児期前期に279.5人あり、1歳が290人と最多の報告があった。流行性耳下腺炎は乳児期後半に多く、そのうち5歳が40人と最も多かった。

5. 保健所(地区)別・疾病別報告数の定点当たりでの検討

地区別に定点当たりの報告数をみるとインフルエンザは北部地区が多く、奈良市保健所が369.6と最多であったが、全国値(354.2)を上回ったのは、奈良市保健所以外には葛城保健所(363.5)があった。RSウイルス感染症は北・中部地区に多発、葛城保健所(34.7)、奈良市保健所(34.4)、桜井保健所(33.0)が全国平均(31.9)を上回った。咽頭結膜熱は葛城保健所が55.7と最も多く、ついで郡山保健所が27.1で、全国の25.1を上回った。A群溶連菌咽頭炎は奈良市保健所が最多で110.1と全国の96.8を上回った。感染性胃腸炎は葛城保健所が最多で265.9であったが、全国の319.6より少なかった。水痘は奈良市保健所の64.1が最多であり、全国の50.1を上回った。手足口病は郡山保健所で15.9、伝染性紅斑は奈良市保健所で6.1が最多であったが、いずれも全国値より少なかった。突発性発疹は奈良市保健所が33.9で最多であり、全国の28.0より多かった。ヘルパンギーナは奈良市保健所が48.3で最も多く、全国値の43.6を上回った。流行性耳下腺炎は奈良市保健所が9.6で最多であったが、全国14.7より少なかった。

北・中部地区の都市部に疾病は集中していたが、山間部の南部地区での発生は少なかった。

(足立 豊彦 記)

平成26年 年報資料

全国

累積	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
平成25年	1166251	96503	72965	253880	1071055	174992	303314	10113	89457	1663	94747	40999
平成26年	1742819	100296	78959	304247	1004756	157640	83683	32342	87981	2066	137040	46340
差	576568	3793	5994	50367	-66299	-17352	-219631	22229	-1476	403	42293	5341

定点	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
平成25年	237.19	30.71	23.22	80.8	340.88	55.69	96.54	3.22	28.47	0.53	30.15	13.05
平成26年	354.23	31.9	25.11	96.77	319.58	50.14	26.62	10.29	27.98	0.66	43.59	14.74
差	117.04	1.19	1.89	15.97	-21.3	-5.55	-69.92	7.07	-0.49	0.13	13.44	1.69

奈良県

累積	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
平成25年	9471	916	570	1134	7779	1221	2092	32	549	1	615	154
平成26年	16239	1011	989	1787	7741	1279	427	125	624	2	1273	225
差	6768	95	419	653	-38	58	-1665	93	75	1	658	71

定点	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
平成25年	175.39	26.94	16.76	33.35	228.79	35.91	61.53	0.94	16.15	0.03	18.09	4.53
平成26年	300.72	29.74	29.09	52.56	227.68	37.62	12.56	3.68	18.35	0.06	37.44	6.62
差	125.33	2.8	12.33	19.21	-1.11	1.71	-48.97	2.74	2.2	0.03	19.35	2.09

定点	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
全国	354.23	31.90	25.11	96.77	319.58	50.14	26.62	10.29	27.98	0.66	43.59	14.74
三重県	365.01	37.96	33.58	61.51	339.11	45.18	26.91	3.42	31.40	0.38	50.47	9.09
滋賀県	353.63	24.19	16.52	76.61	332.97	44.81	15.74	1.84	24.23	0.45	49.10	6.71
京都府	329.62	19.78	24.14	58.22	291.30	31.96	14.82	3.66	17.75	0.15	26.93	7.86
大阪府	312.15	42.95	29.24	104.57	346.23	49.09	11.24	3.46	27.83	0.86	48.76	8.65
兵庫県	318.16	31.84	23.24	65.00	384.38	52.43	12.62	5.20	26.15	0.56	46.09	9.21
奈良県	300.72	29.74	29.09	52.56	227.68	37.62	12.56	3.68	18.35	0.06	37.44	6.62
和歌山県	214.47	24.39	15.84	43.77	205.03	41.81	16.19	0.68	21.90	0.61	37.19	2.97

世代別 報告数

大文字は最高値

世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	老齢期
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳～
インフルエンザ	204	1061	2294	7769	668	3544	699
世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20歳～	
RSウイルス感染症	365	477	147	19	2	1	
咽頭結膜熱	74	347	365	181	3	19	
A群溶連菌咽頭炎	9	109	633	964	15	57	
感染性胃腸炎	502	1845	1810	2113	273	1198	
水痘	81	361	548	278	2	9	
手足口病	19	223	148	34	0	3	
伝染性紅斑	4	18	77	25	0	1	
突発性発疹	292	324	7	1	0	0	
百日咳	1	0	0	0	0	1	
ヘルパンギーナ	65	559	501	140	2	6	
流行性耳下腺炎	2	32	94	92	2	3	

世代別 割合(%)

大文字は最高値

世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	老齢期
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳～
インフルエンザ	1.3	6.5	14.1	47.8	4.1	21.8	4.3
世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20歳～	
RSウイルス感染症	36.1	47.2	14.5	1.9	0.2	0.1	
咽頭結膜熱	7.5	35.1	36.9	18.3	0.3	1.9	
A群溶連菌咽頭炎	0.5	6.1	35.4	53.9	0.8	3.2	
感染性胃腸炎	6.5	23.8	23.4	27.3	3.5	15.5	
水痘	6.3	28.2	42.8	21.7	0.2	0.7	
手足口病	4.4	52.2	34.7	8.0	0.0	0.7	
伝染性紅斑	3.2	14.4	61.6	20.0	0.0	0.8	
突発性発疹	46.8	51.9	1.1	0.2	0.0	0.0	
百日咳	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
ヘルパンギーナ	5.1	43.9	39.4	11.0	0.2	0.5	
流行性耳下腺炎	0.9	14.2	41.8	40.9	0.9	1.3	

世代別 報告数 1歳平均 (人数)

大文字は最高値

世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	老齢期
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20～59歳	60歳～
インフルエンザ	204.0	530.5	764.7	863.2	133.6	88.6	23.3
世代	乳児期	幼児前期	幼児後期	学童期	思春期	成人期	
年齢	0歳	1～2歳	3～5歳	6～14歳	15～19歳	20歳～	
RSウイルス感染症	365.0	238.5	49.0	2.1	0.4	0.0	
咽頭結膜熱	74.0	173.5	121.7	20.1	0.6	0.3	
A群溶連菌咽頭炎	9.0	54.5	211.0	107.1	3.0	0.8	
感染性胃腸炎	502.0	922.5	603.3	234.8	54.6	17.1	
水痘	81.0	180.5	182.7	30.9	0.4	0.1	
手足口病	19.0	111.5	49.3	3.8	0.0	0.0	
伝染性紅斑	4.0	9.0	25.7	2.8	0.0	0.0	
突発性発疹	292.0	162.0	2.3	0.1	0.0	0.0	
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	65.0	279.5	167.0	15.6	0.4	0.1	
流行性耳下腺炎	2.0	16.0	31.3	10.2	0.4	0.0	

インフルエンザ定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

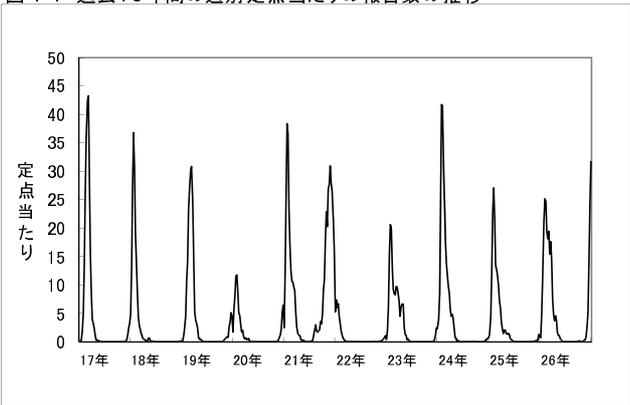


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

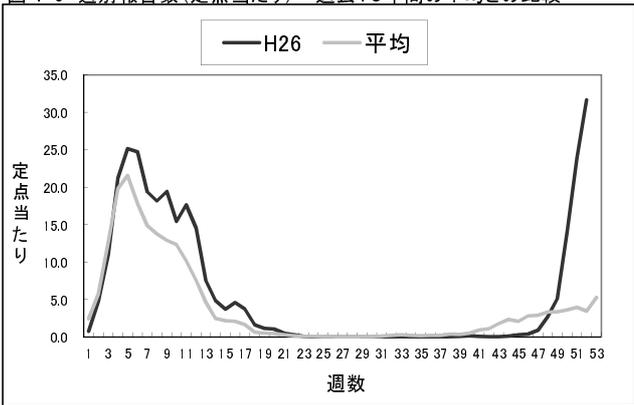


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

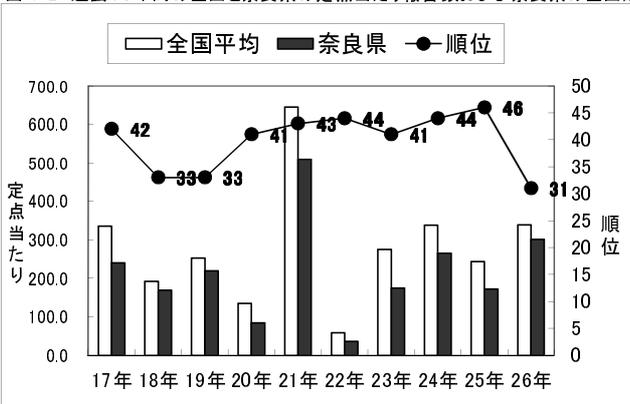
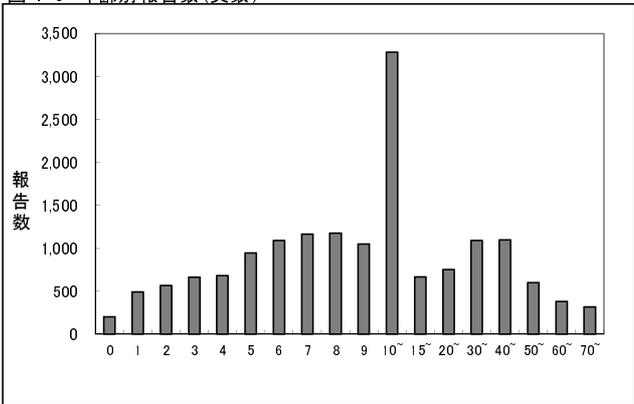


図 1-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

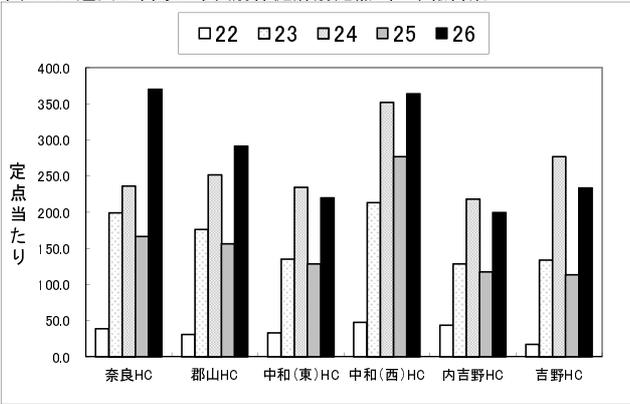
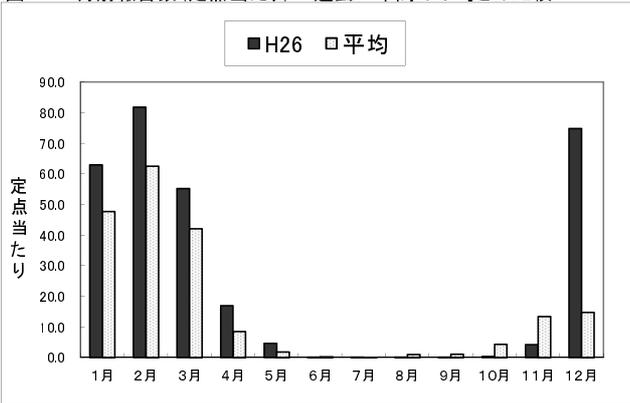


図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は16,239例、定点当たり300.72であり、過去10年間で2番目に多い年であった。都道府県別でも、全国31位と過去10年で最も高い順位を示した。保健所別の定点当たりの報告数は、最多が奈良市保健所の369.64、次いで中和(西)保健所の363.55であった。流行の動向を月別で見ると、11月下旬に流行開始である目安となる定点当たりの報告数が1を超え、さらに12月年末には速やかに警報開始基準値30を上回り、流行の拡大が急速であった。年齢別では、8歳が1,178例と最多で、5~9歳の就学前後に多く分布した。

(上野 満久 記)

小兒科定点分

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

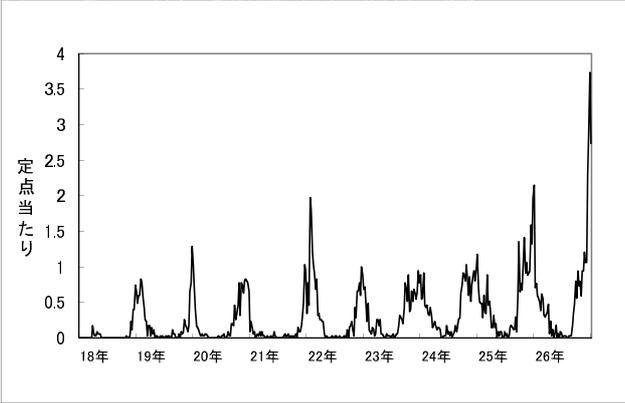


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

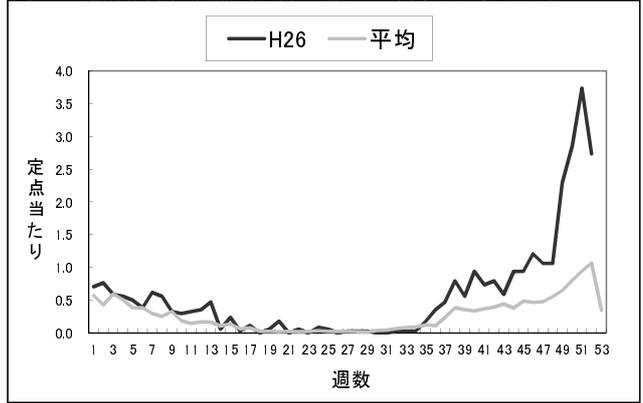


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

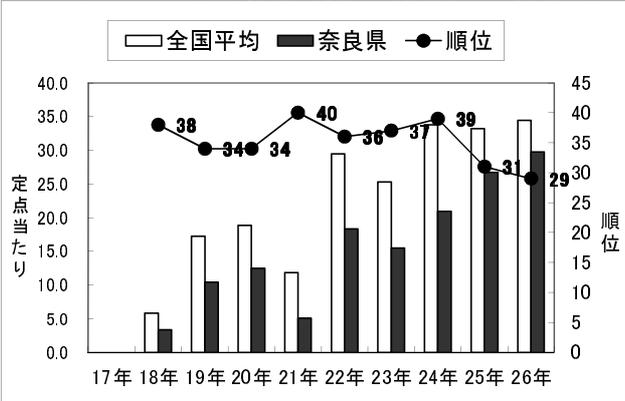
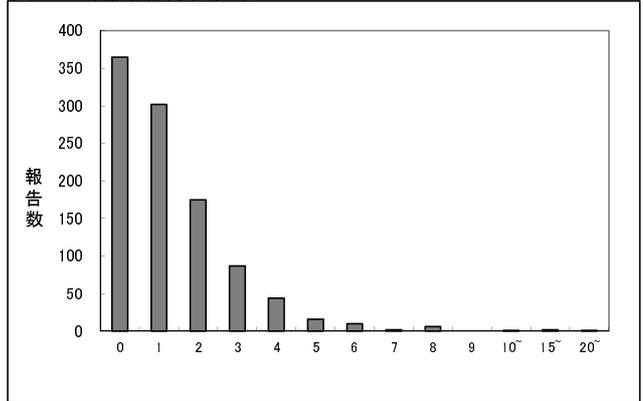


図 2-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

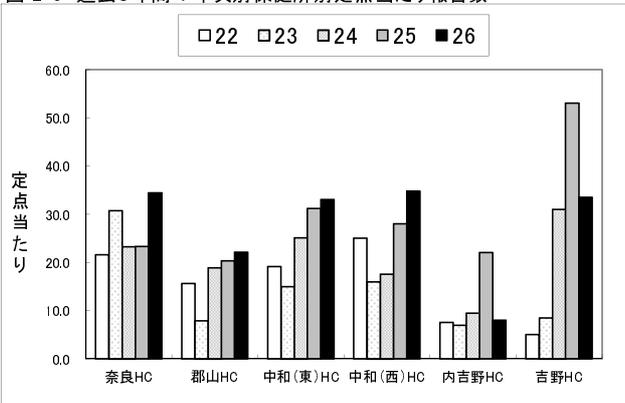
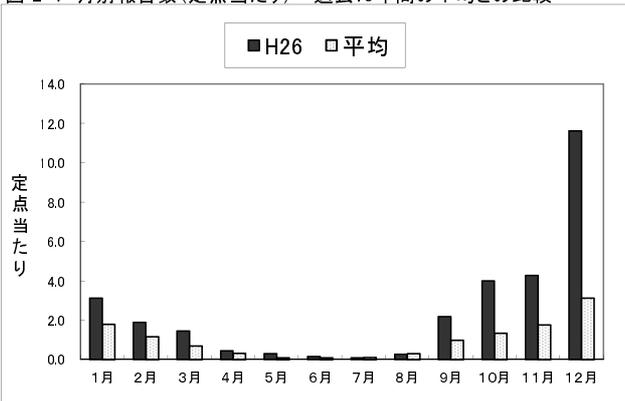


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は1,011例、定点当たり29.74であり、過去9年間で最多であった。都道府県別の定点当たりにおいても、全国29位と過去10年で最も高い順位を示した。保健所別の定点当たりの報告数は、奈良市保健所、中和(東)保健所、中和(西)保健所、吉野保健所がいずれも30を超えた。月別報告数は、12月を急激なピークとして流行した。年齢別報告数では、0歳が最も多く、0～5歳児が全体の約98%を占めた。
(上野 満久 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

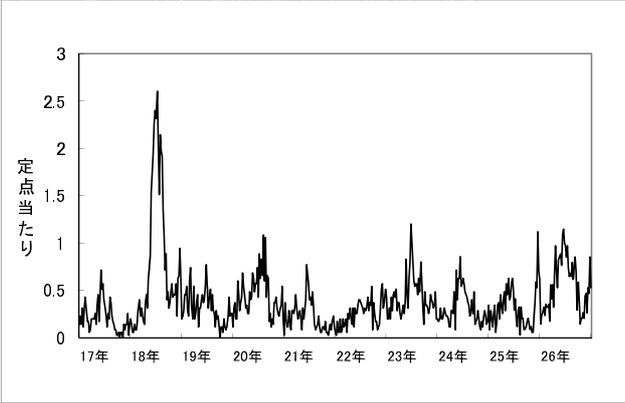


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

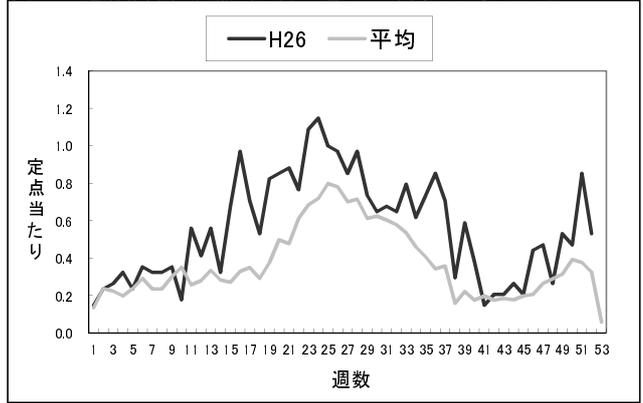


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

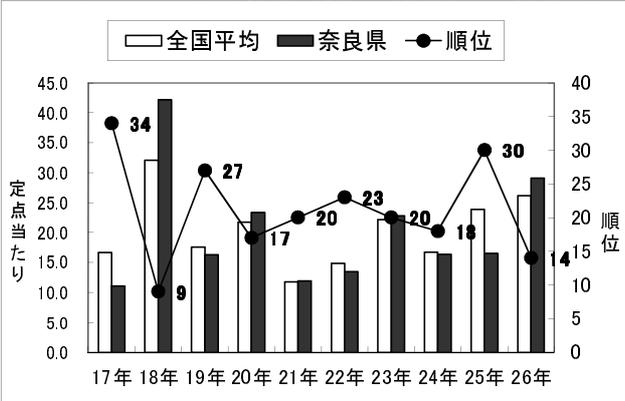
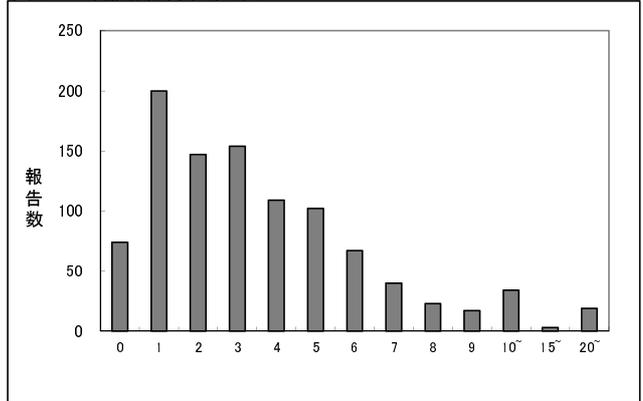


図 3-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

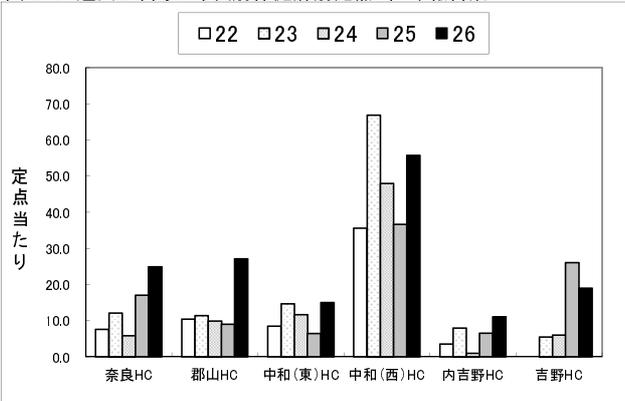
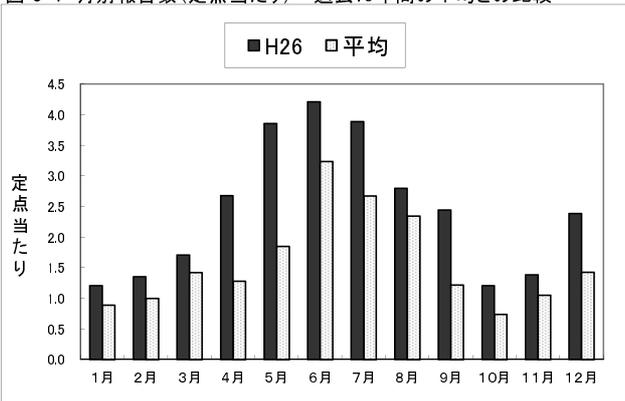


図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は989例、定点当たり29.09であり、過去10年間で2番目に多かった。都道府県別の定点当たりにおいても、全国14位と過去10年で2番に高い順であった。保健所別の定点当たりの報告数は、中和(西)保健所が55.71と顕著に多かった。月別報告数は、5~7月の夏季の大きく流行とともに、12月にもやや流行があった。年齢別報告数では、1歳が最も多く、0~5歳児が全体の約80%を占めた。
(上野 満久 記)

4.A群溶連菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

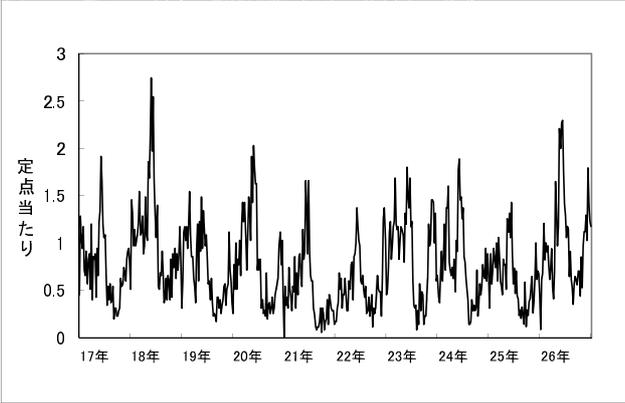


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

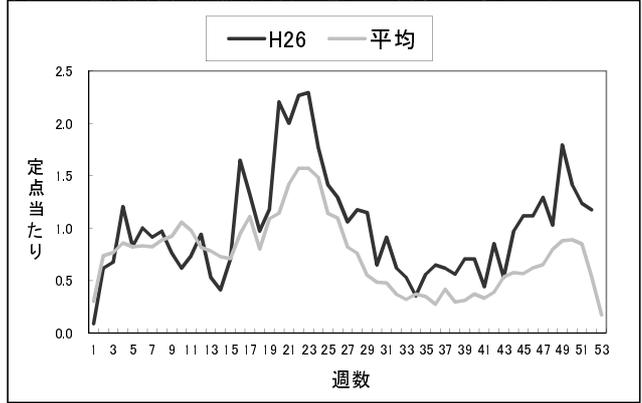


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

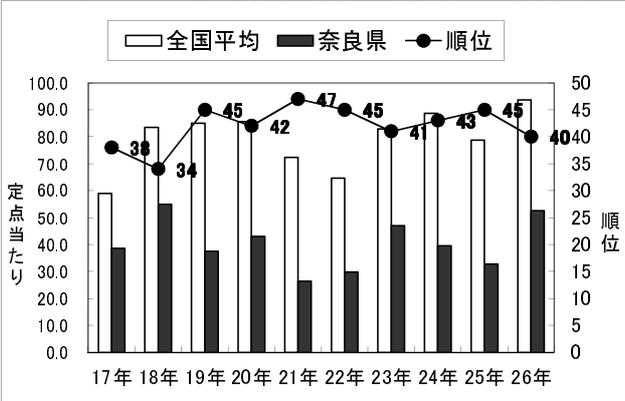
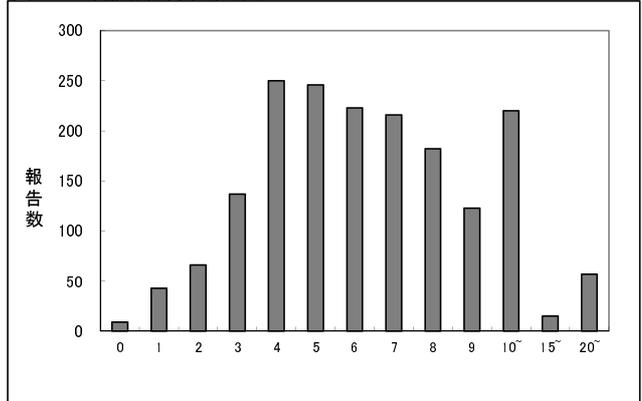


図 4-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

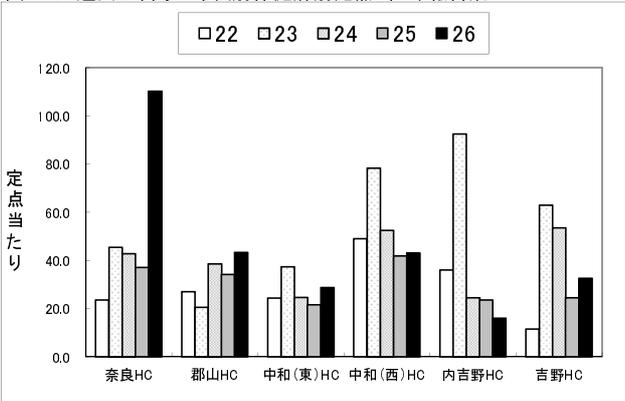
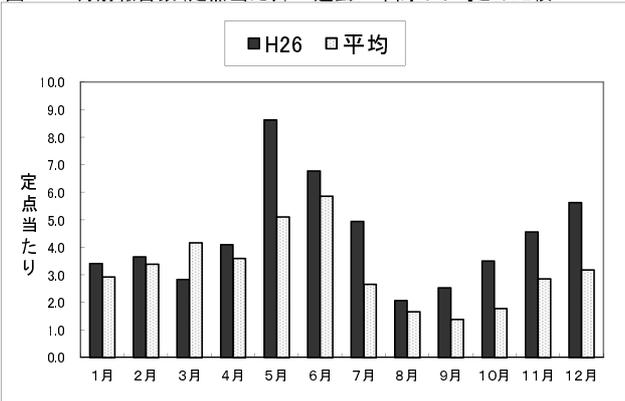


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は1,787例、定点当たり52.56であり、前年32.75、前々年39.49と比較すると増加。過去10年間の定点当たりの報告数でも平成18年の54.91に次いで多かった。
 都道府県別の定点当たり報告数順位では、奈良県は平成18年の34位をピークに以後は41～47位で推移し、本年は40位であった。
 保健所別の定点当たりの報告数は、奈良市保健所が110.14と全国値を大きく上回り、次いで郡山保健所 43.30、中和(西)保健所 43.00であった。最小は吉野保健所の16.00。
 月別の定点当たりの報告数では、1～2月は2.92～3.38で推移していたが、3月には4.16と増加がみられ、5月は5.09、6月には5.85と最多であった。7月以降は減少し、3.18～1.38で推移した。
 年齢別の報告数は、最多は4歳250例、5歳246例、6歳223例、7歳216例、8歳182例とこの年齢層をピークとする一峰性分布を示し、この年齢層で60%以上を占めた。

(橋本 和子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

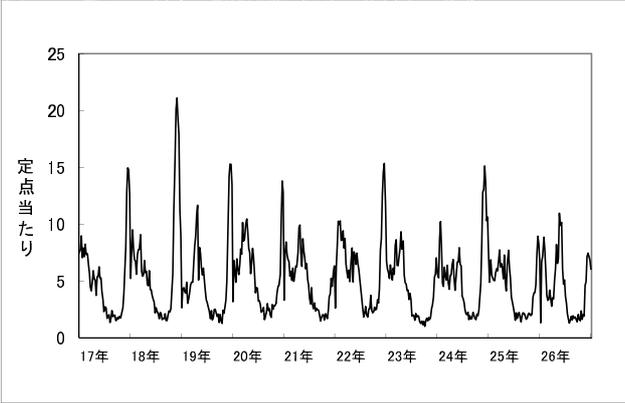


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

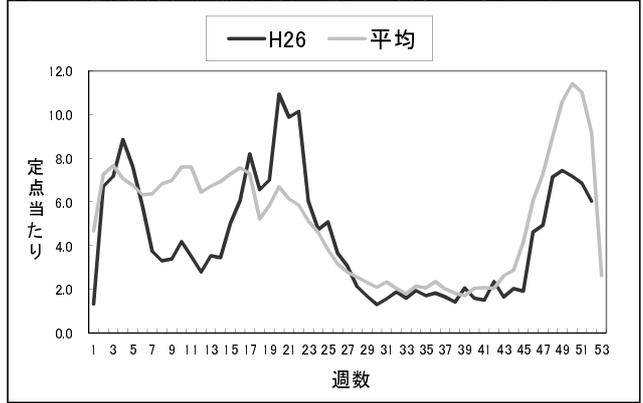


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

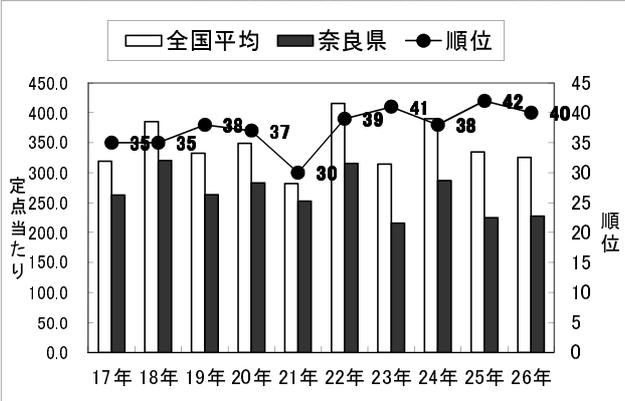
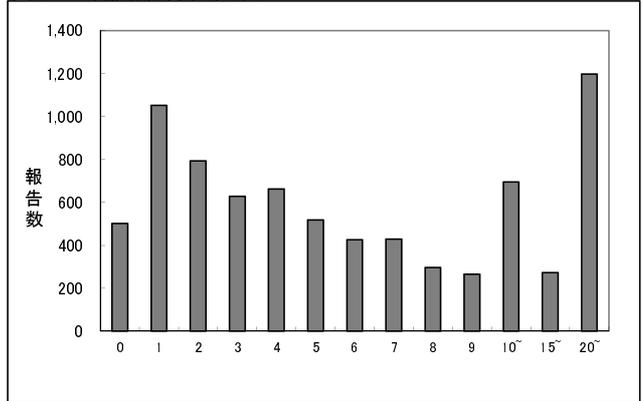


図 5-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

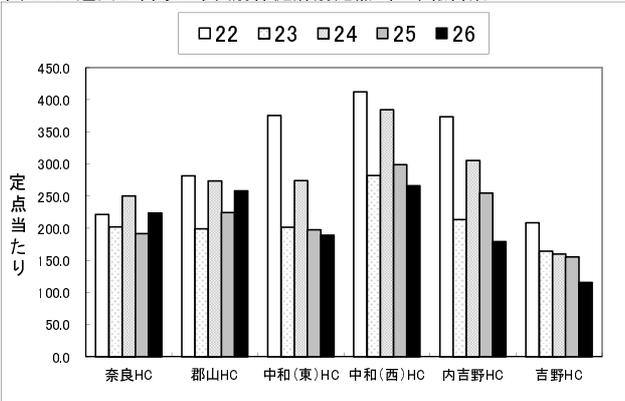
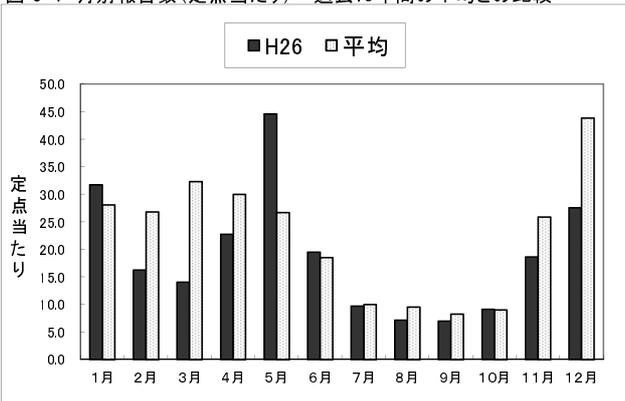


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は7,741例、定点当たり227.68であり、前年の224.67と比し、ほぼ増減はなかった。
過去10年間の定点当たり報告数は300～200の間で推移している。都道府県別の定点当たりの報告数では、奈良県は40位であった。保健所別の定点当たりの報告数は、最多は中和(西)保健所の265.86、次いで郡山保健所の258.20で、最少は吉野保健所の115.50であった。
月別の定点当たりの報告数は1月から5月まで26.63～32.30と冬から春先まで流行期が続いた。6月には18.50と減少し、夏～秋期は1桁の報告数であった。11月には25.84と増加し、12月の43.82が最多となった。
年齢別の報告数は、最多は1歳の1,052例、次いで2歳の793例であり、乳幼児期でほぼ6割を占めた。

(橋本 和子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

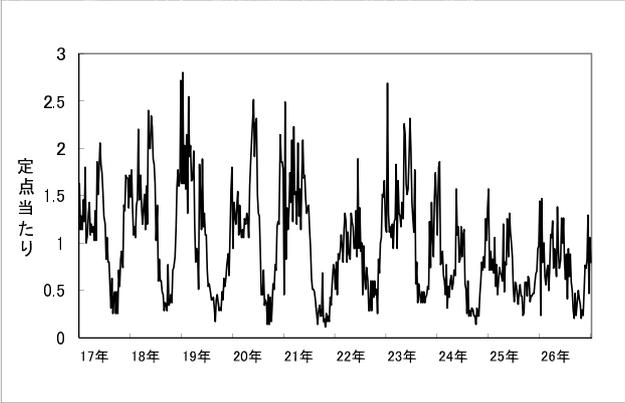


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

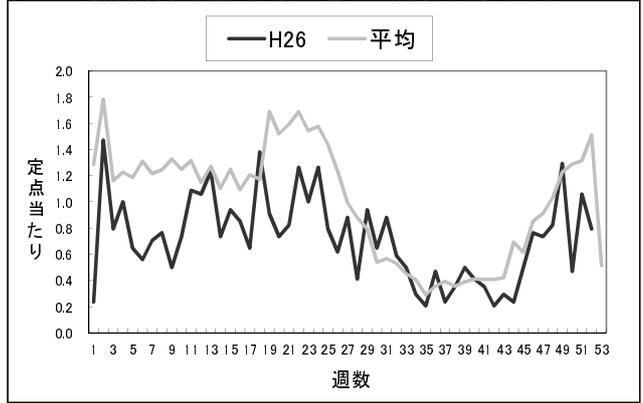


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

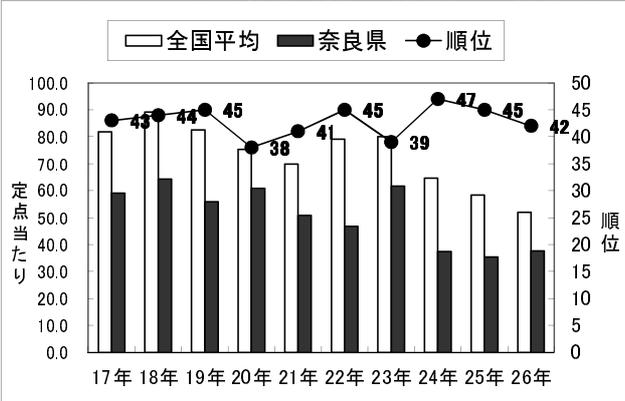
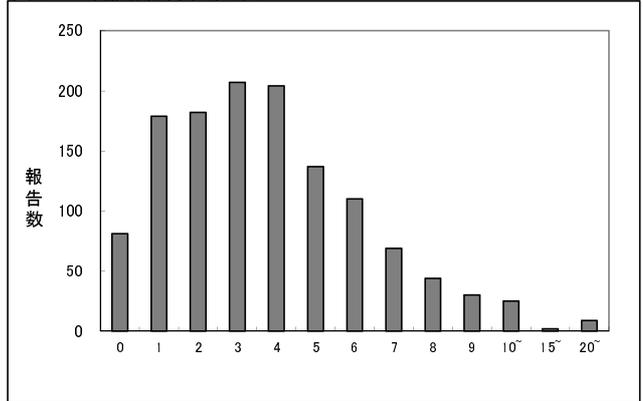


図 6-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

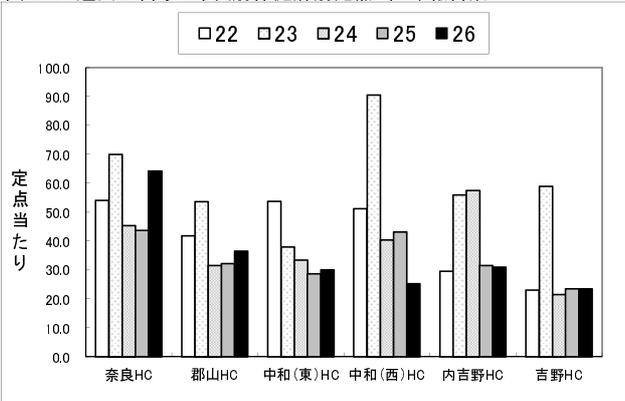
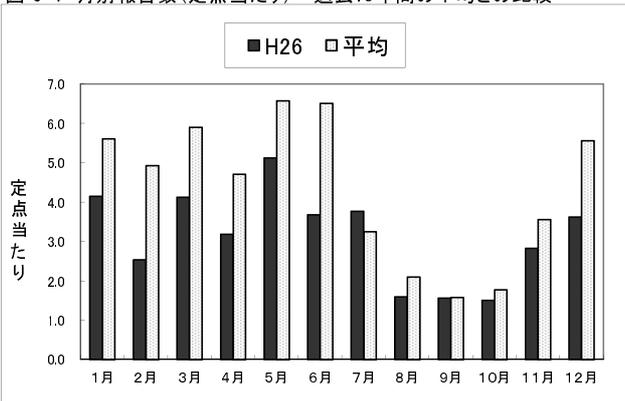


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

報告数は1,279例、定点当たり37.62であった。過去10年間の定点当たりの報告数は60前後が続いていたが、平成24年に37.40と減少し、以降は35.32～37.62で推移している。

都道府県別の定点当たりの報告数では、奈良県は42位であった。保健所別の定点当たりの報告数では奈良市保健所が64.14と全国値に比しても多いが、その他は36.50～23.50で、最少は吉野保健所であった。

過去10年間の月別平均報告数をみると、冬から夏前にかけて報告が多く、4.71～6.57の幅広いピークとなっている。最多は5月の6.57、次いで6月も6.50と多いが、7月には3.24と減少し、11月までは1.58～3.55で推移している。冬期になり12月には5.56と増加に転じている。

年齢別の報告数では、最多は3歳の207例、次いで4歳204例、2歳182例、1歳179例と続き、6歳までの未就学児でほぼ9割を占めた。

(橋本 和子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

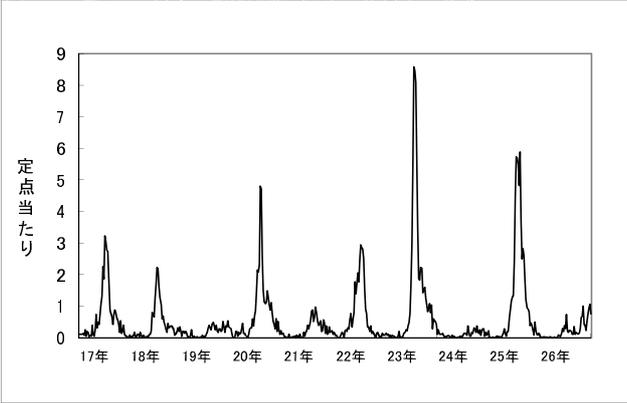


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

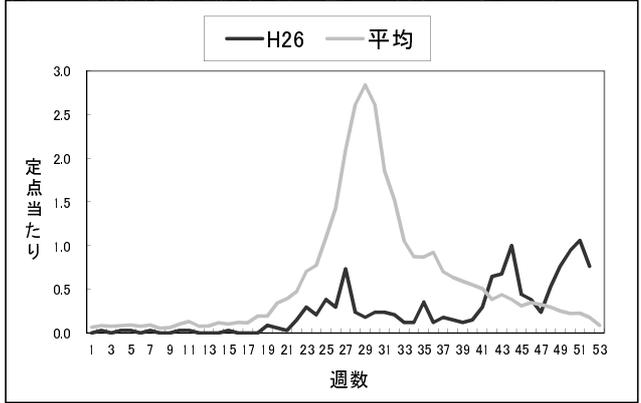


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

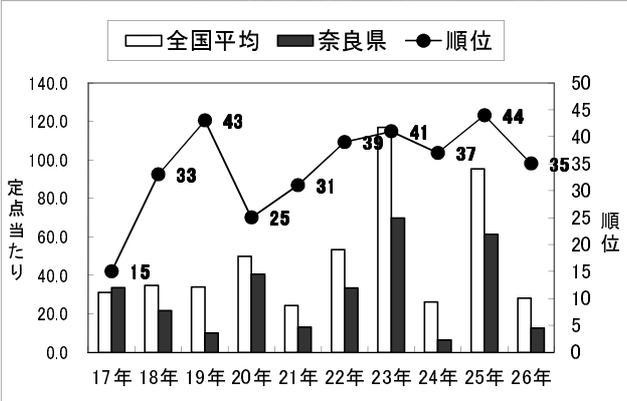
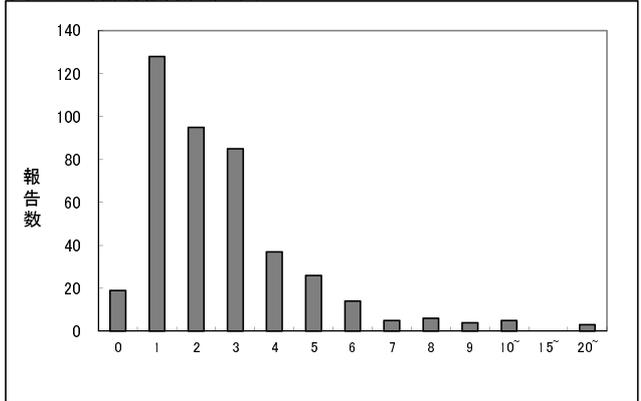


図 7-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

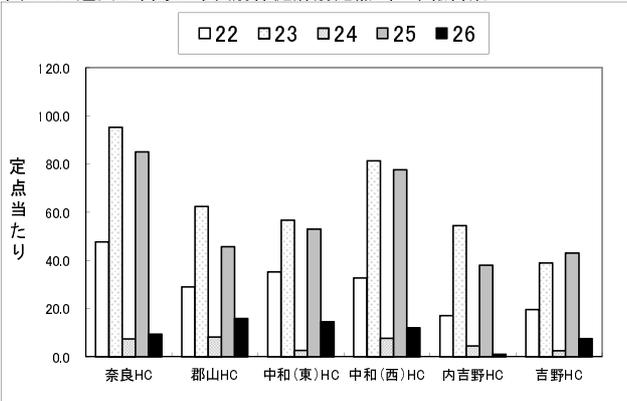
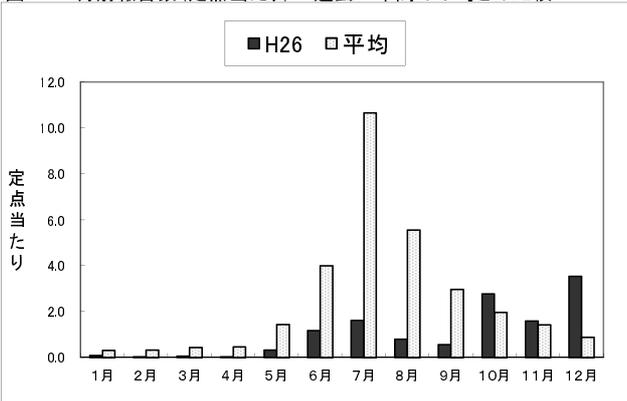


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年における全報告数は427例、定点当たりの報告数は12.56(全国平均:28.08)で、昨年と比較すると一転し激減した。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、2~3年間隔の流行周期を認め、大流行した平成23年(69.83)、25年(61.33)を除き、例年ほぼ30~40台で推移していたが、平成26年はそれを大きく下回っていた。

都道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県は全国順位35位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、例年の様に突出して報告数が多い保健所は認めなかった。郡山保健所、中和(東)保健所、中和(西)保健所が、順に15.90、14.57、12.00と同程度で、次いで奈良市保健所:9.43、吉野保健所:7.50と続き、最少が内吉野保健所で1.00だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、例年は7月をピークにして6月から9~10月に集中する一峰性の分布をしていた。平成26年においては、梅雨頃から初秋にかけて報告が集中するこの時期の減少が著しく、逆に10月以降は例年より若干の増加を認め、小さな二峰性の分布となっていた。特に、12月においては例年のほぼ4倍に当たる報告数(定点当たり)であった。第24週前後~第40週における定点あたりの報告数の減少が例年より著しく、また、第40週以降は例年より増加していた。

年齢別での実報告数をみると、1歳(128例)、2歳(95例)3歳(85例)に集中した分布はほぼ例年と変わりなく、この年代で全体の70%強を占めていた。そして、6歳までの小学校就学前の年代で、全体のほぼ95%を占めており、就学後の7歳以上の年代では散発的な報告にすぎなかった。

(村井 孝行 記)

8. 伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

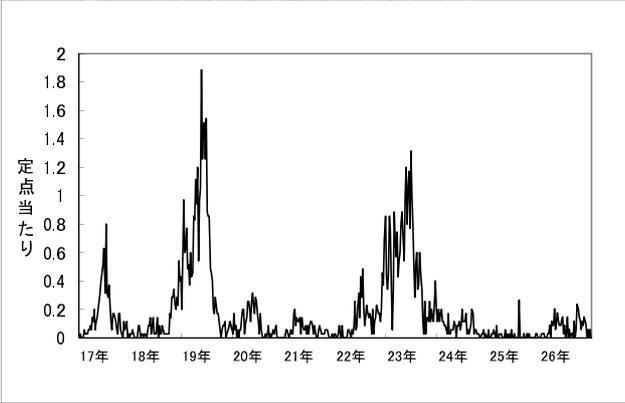


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

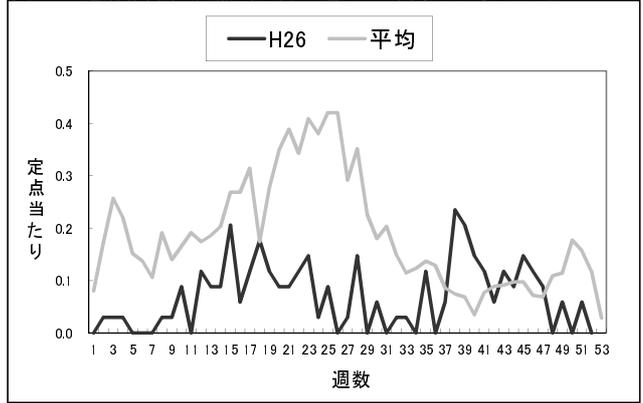


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

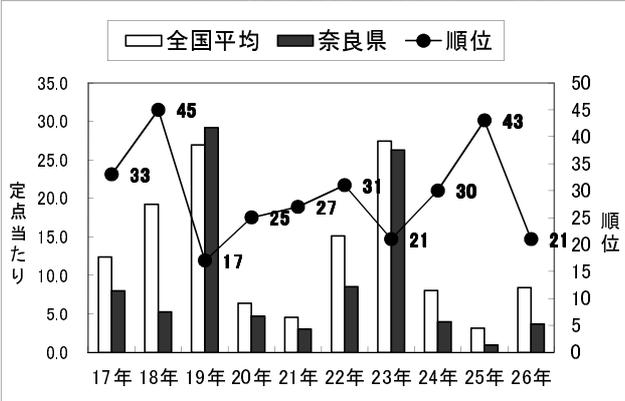
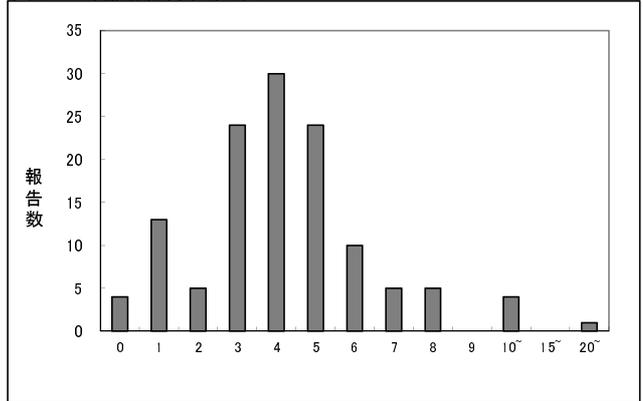


図 8-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

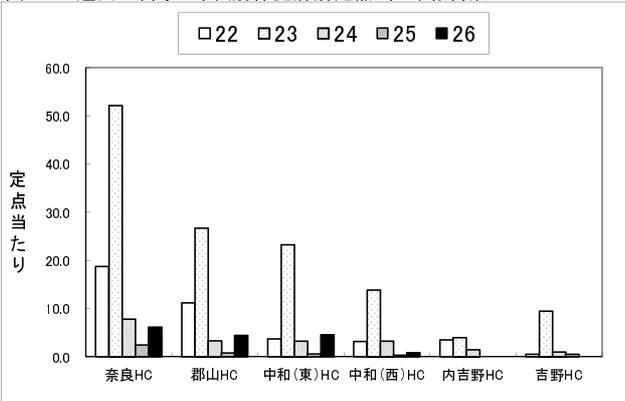
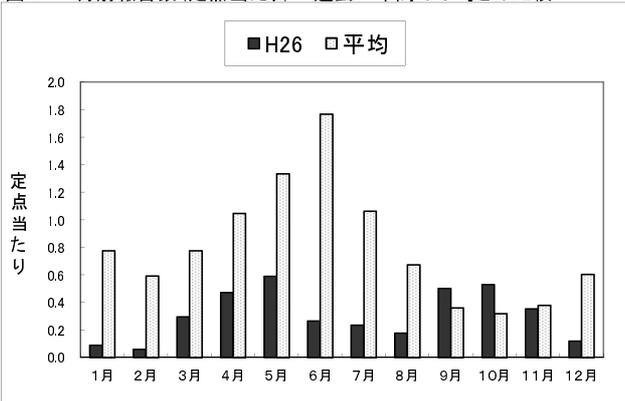


図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年における全報告数は125例、定点当たりの報告数は3.68(全国平均:8.39)で、平成19年の29.17および平成23年の26.26を除き、例年3.00~5.00の間を推移しており、ほぼ例年通りだった。

都道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県は全国順位21位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、奈良市保健所:6.14とやや多かったものの、郡山保健所:4.40と中和(東)保健所:4.57とはほぼ同数で、奈良市保健所とは大差なかった。次いで中和(西)保健所が0.86で、吉野保健所、内吉野保健所は共に報告はなかった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、例年(10年間平均)における報告分布は、6月頃をピークとしたほぼ一峰性の分布をしており、年間通して報告されていた。しかし、平成26年は、流行始期に当たる冬場の第1~8週に当たる1~2月と第48~53週に当たる12月、また、特にピーク時の夏場の第20~34週当たりの6~8月における報告数が、極めて少なかったのが目立った。

年齢別での実報告数をみると、ピークをなしている3歳(24例)、4歳(30例)、5歳(24例)の年代で全体のほぼ60%強を占めており、次いで1歳(13例)、6歳(10例)で多くなっていた。0歳、2歳および小学校就学以降の年代においては、一桁前半台程度の報告数にとどまっていた。

(村井 孝行 記)

9. 突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

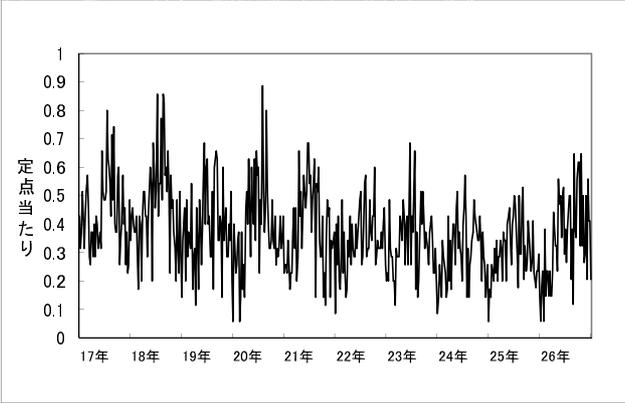


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

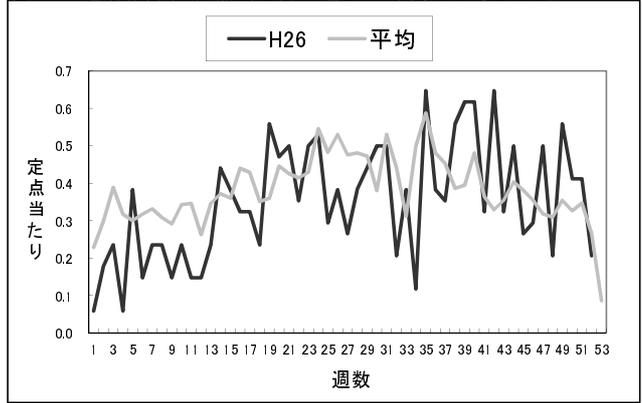


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

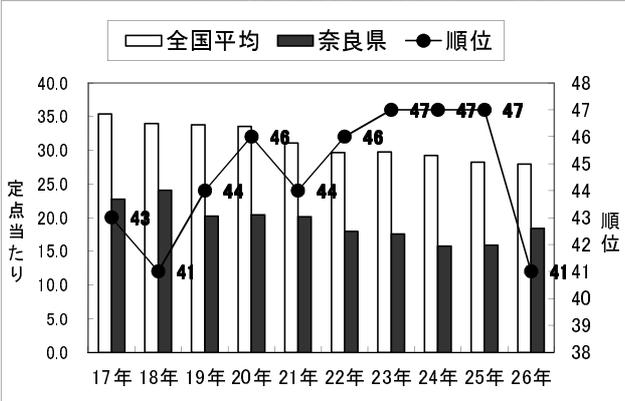
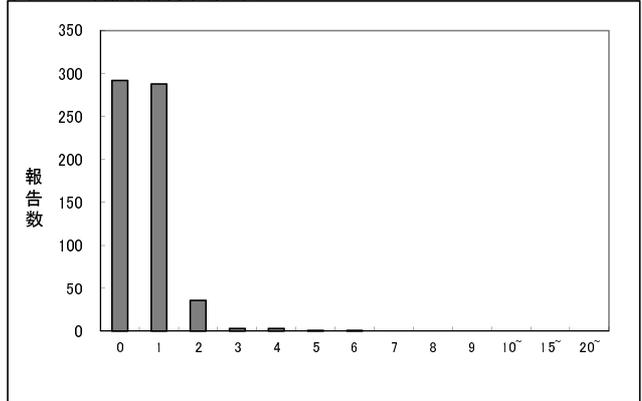


図 9-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

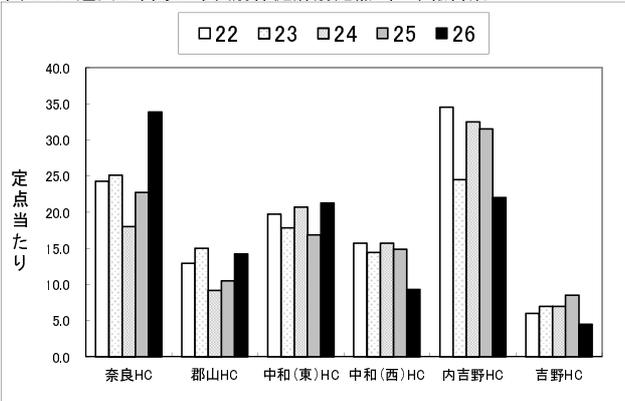
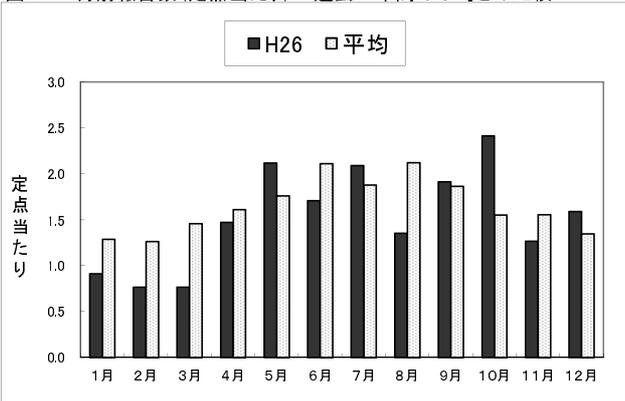


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年における全報告数は624例、定点当たりの報告数は18.35(全国平均:27.94)だった。

過去10年間の定点当たりの報告数で見ると、全国的には、平成17年以降なだらかに右肩下がりの減少傾向がほぼ認められているが、平成26年の奈良県においては微増しており、今後の動向に注意を要するものと思われた。

このことを受けて、道府県別に定点当たりの報告数をみると、平成18年と同様に全国順位41位となっていた。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、奈良市保健所が33.86と最多で突出しており、中和(東)保健所が21.29、内吉野保健所が22.00とほぼ同程度であった。次いで、郡山保健所が14.20、中和(西)保健所が9.29と続き、例年通り吉野保健所が4.50と最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、例年(10年間平均)は、梅雨時期の6月から夏場から初秋にかけての7~9月をピークとした一峰性分布であった。平成26年は、第1~13週頃に当たる1~3月における報告数が減少したことで、多少の増減は認められたものの、季節を問わず4~12月にかけてなだらかにピーク期をなしていた。また、例年の年間最多報告数に当たる第24~28週頃に当たる6月と第32~36週頃に当たる8月の報告数が減少、さらには例年のピーク時を過ぎ始める第37~40週頃に当たる10月の報告数が、年間最多報告数となっていたことが目立っていた。

年齢別での実数報告数を見ると、0歳(292例)と1歳(288例)でほぼ全体の90%強を占め、2歳で36例の報告があるが、以降の年代では散発な報告であった。

(村井 孝行 記)

10.百日咳

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

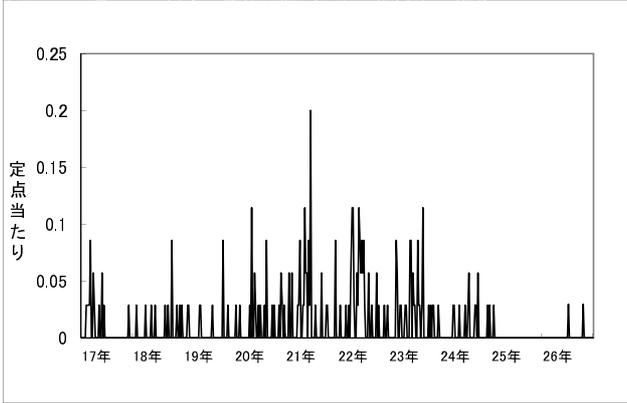


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

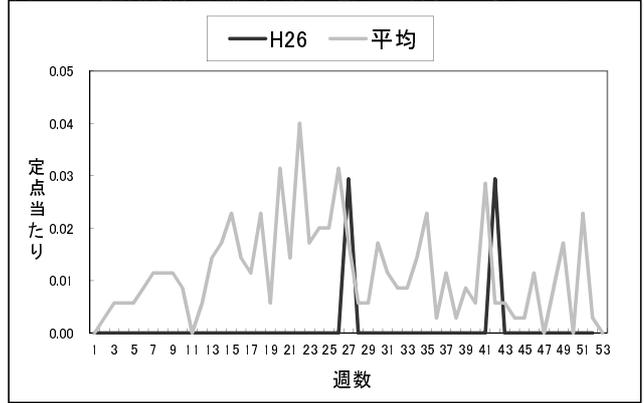


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

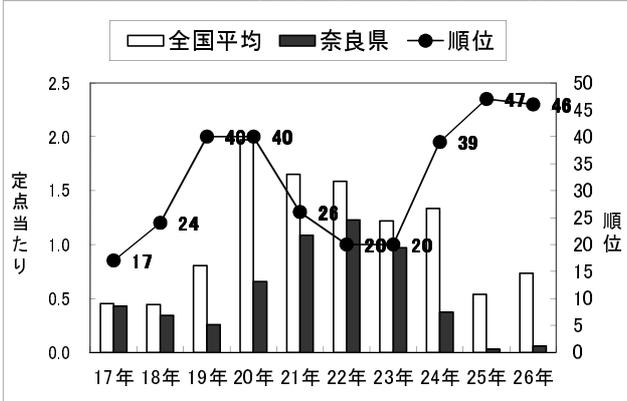
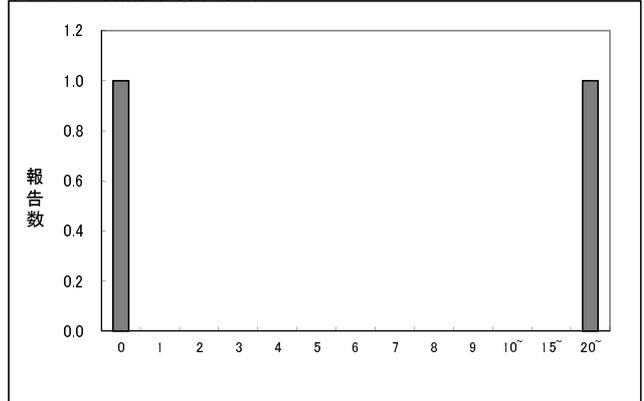


図 10-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

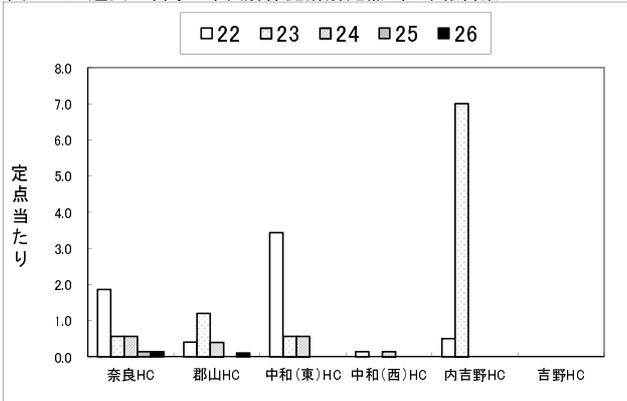
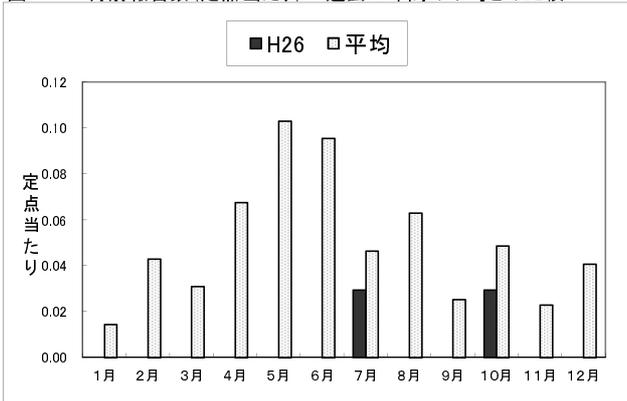


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H26の奈良県の報告数は2人(定点当たり0.06)であった。

過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図10-1)は、H20-H23において4年連続で0.1を超える週が出現していたが(=最多はH21第26週:0.20)、以後、各年の最多はH24(0.06)、H25(0.03)(=第3週の1人のみ)、H26(0.03)といずれも低水準であった。

過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図10-2)は、H26が全国の0.73に対し、奈良県は0.06で、全国順位は46位であった。

過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図10-3)は、H26は奈良市(0.14)、郡山(0.10)のみであった。内吉野は3年連続、吉野は5年連続報告がなかった(=共に南和2次医療圏)。

月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図10-4)は、10年平均では最多が5月(0.10)で、最少が1月(0.01)であった。一方、H26は7月と10月が共に0.03で、他の月は全て0.00であった。

週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較(図10-5)は、10年平均では最多の週は第22週(0.04)であった。一方、H26は第27週及び第42週の0.03(=各々1人)のみであった。

年齢別報告数(図10-6)は、0歳が1人、及び、20-29歳が1人であった。

(柳生 善彦 記)

11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

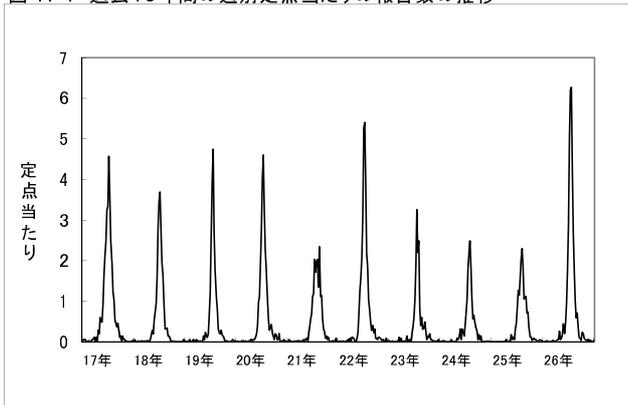


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

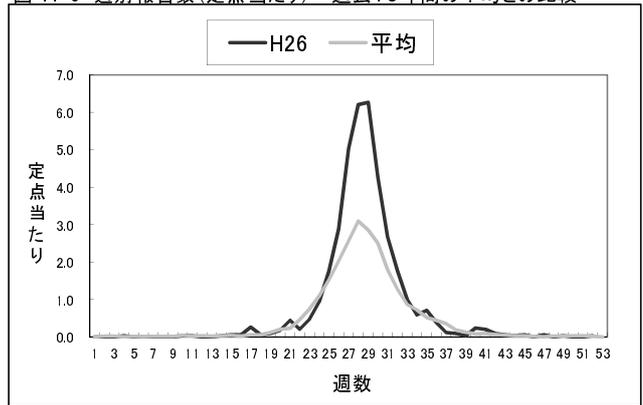


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

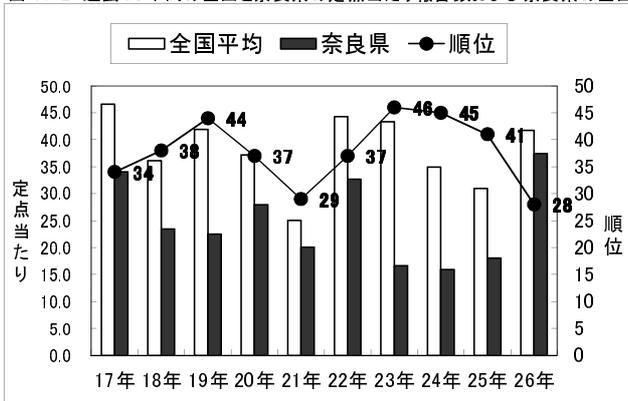
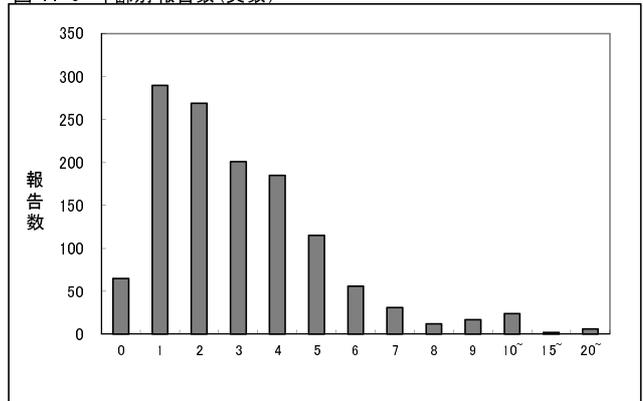


図 11-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

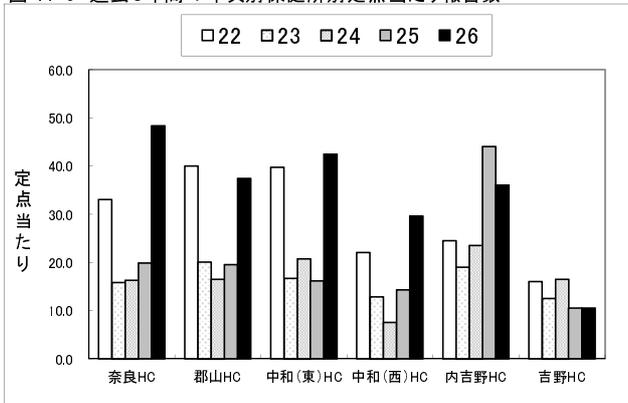
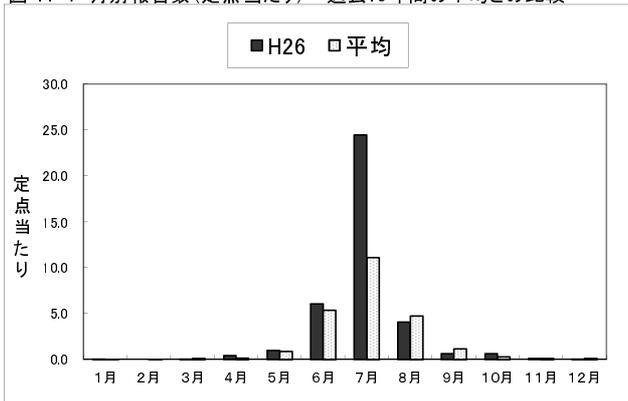


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H26の奈良県の報告数は、1273人(定点当たり37.44)であった。

過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図11-1)は、例年、年間最多報告数の週が一峰性あるいはそれに近似したピークとして明瞭に顕れていた。その値(=ピーク値)が最も高かったのはH26第29週(=213人)(6.26)で、その次がH22第27週(=189人)(5.40)であった。一方、最も低いピーク値はH25第31週(=78人)(2.29)であった。

過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図11-2)は、H26の奈良県(37.44)(28位)が、H17-H25と同様に全国平均(41.76)を下回ってはいたものの、H17(34.03)(34位)を上回り、過去10年間における最多となった。

過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図11-3)は、H26が多い方から①奈良市(48.29)、②中和(東)(42.43)、③郡山(37.40)、④内吉野(36.00)、⑤中和(西)(29.57)、⑥吉野(10.50)の順であった。また、同一保健所における推移では、奈良、中和(東)、中和(西)において、H26が過去5年間での最多であった。

月別報告数(定点当たり)-過去10年間の平均との比較-(図11-4)は、最多の月は10年平均が7月(11.08)で、H26も同じく7月(24.44)であったが、10年平均を大きく上回っていた。

週別報告数(定点当たり)-過去10年間の平均との比較-(図11-5)は、最多の週が10年平均は第28週(3.09)、H26は第29週(6.26)であった。

年齢別報告数(図11-6)は、0歳が65人。1歳が290人で最多。次いで2歳が269人で、以下3歳(201人)から8歳(12人)まで、年齢が高くなると共に漸減傾向を示したが、9歳(17人)は8歳を若干上回っていた。

(柳生 善彦 記)

12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

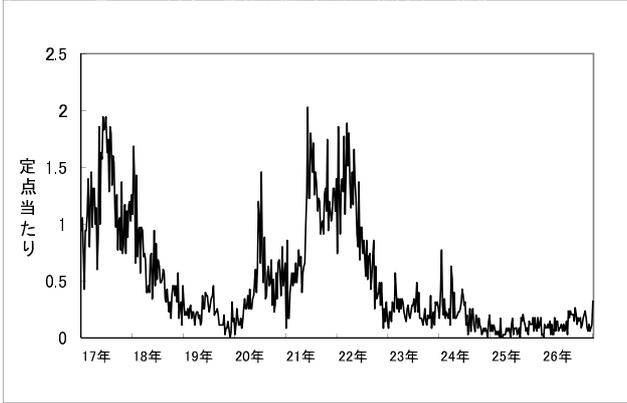


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

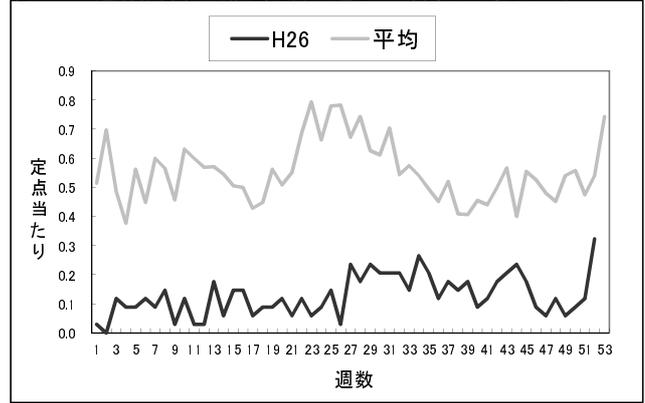


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

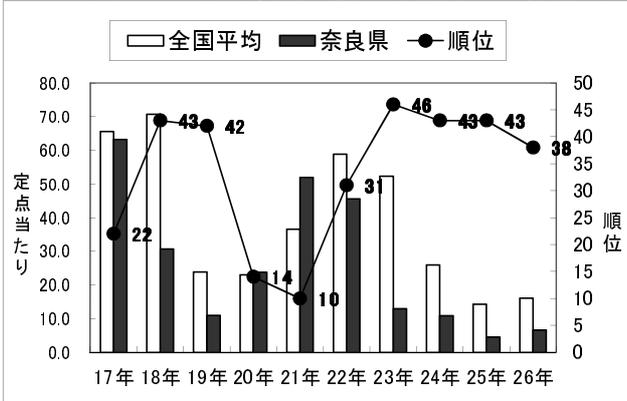
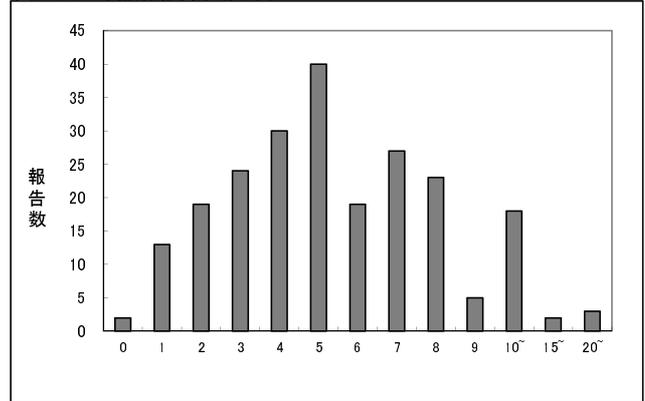


図 12-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

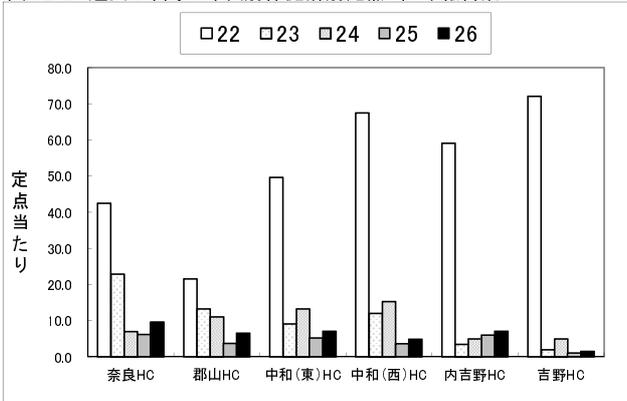
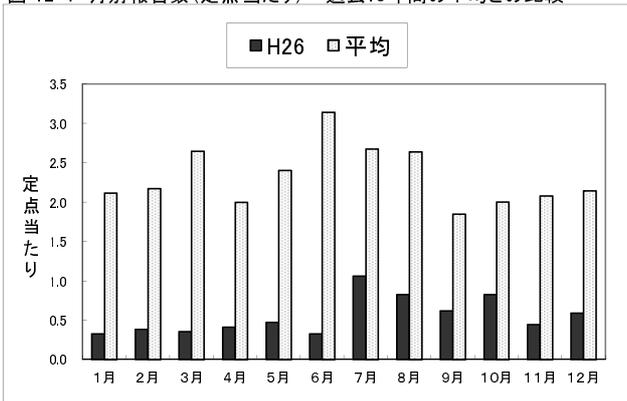


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H26の奈良県の報告数は、225人(定点当たり6.62)であった。

過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移(図12-1)は、H17ーH24では数年毎の増減傾向が見て取れるが、H25(=0.2超が1週のみ)及びH26(=0.3超が1週のみ)は、共に低水準であった。

過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位(図12-2)は、全国平均がH23(52.27)-H25(14.30)の3年連続減少から、H26(16.05)と若干増加したものの過去10年間で2番目の低水準。一方、奈良県もH25(4.48)(43位)からH26(6.62)(38位)と微増したものの、同じく過去10年間で2番目の低水準であった。

過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数(図12-3)は、H26では多い方から①奈良市(9.57)、②中和(東)(7.00)、②内吉野(7.00)、④郡山(6.50)、⑤中和(西)(4.86)、⑥吉野(1.50)の順であった。また、同一保健所における推移では、全ての保健所においてH25に比べH26で増加を認めた。

月別報告数(定点当たり)-過去10年間の平均との比較(図12-4)は、10年平均では最多が6月(3.14)で、最少が9月(1.84)であった。一方、H26では最多が7月(1.06)で、最少が1月及び6月の0.32であった。

週別報告数(定点当たり)-過去10年間の平均との比較(図12-5)は、10年平均では最多が第23週(0.79)であった。最終週の第53週は0.74。一方、H26は最多が第52週(0.32)で、次が第34週(0.26)であった。

年齢別報告数(図12-6)は、5歳(40人)が最多であった。0歳(2人)から5歳では漸増、5歳から9歳(5人)では漸減傾向であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

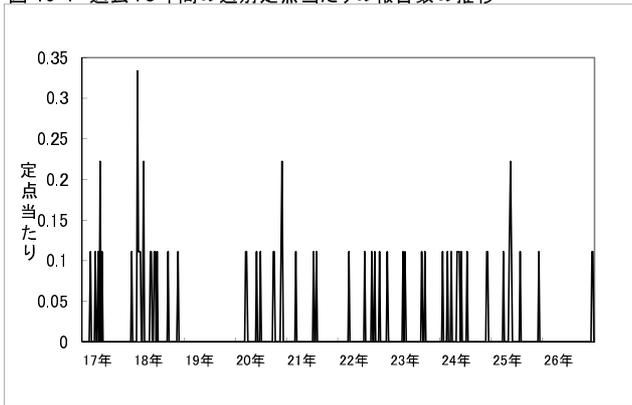


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

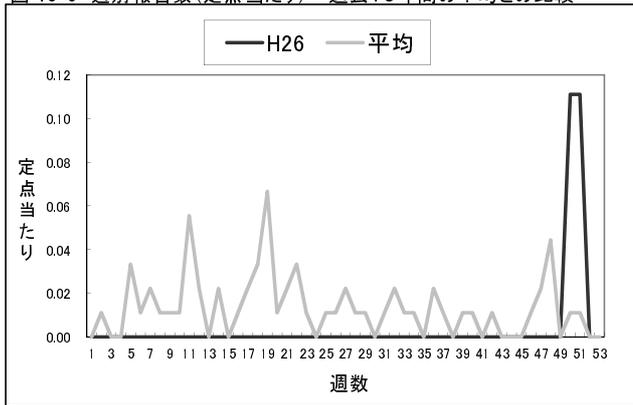


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

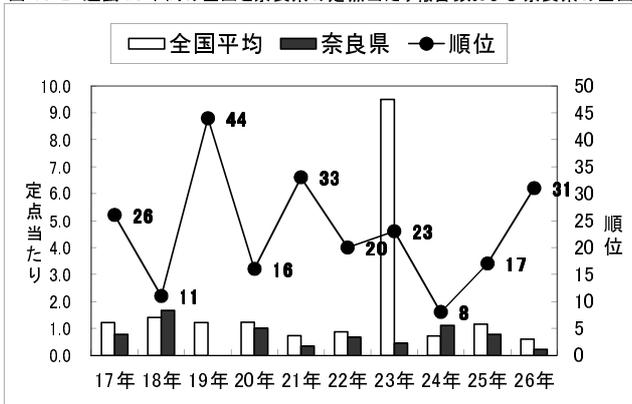
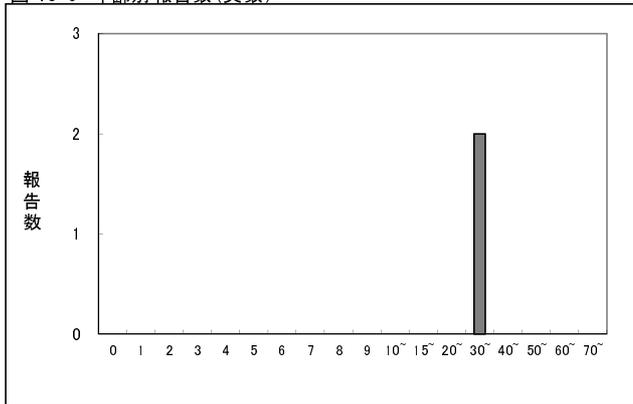


図 13-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

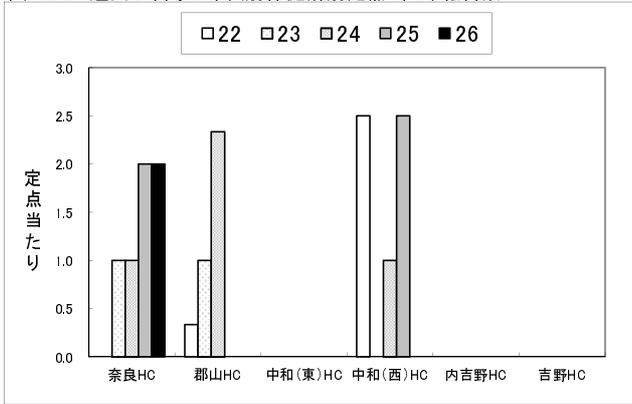
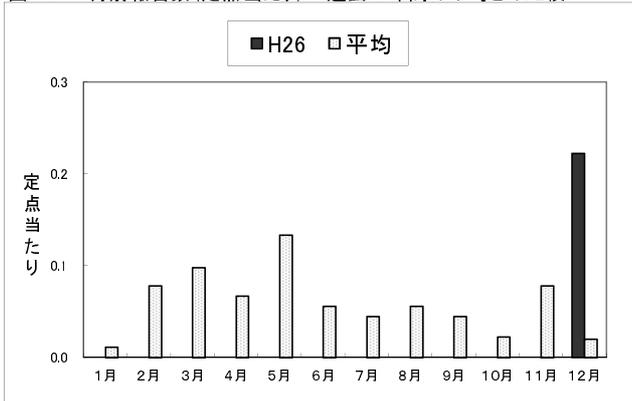


図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では2例の報告があり、50,51週に各1例であった。共に奈良で30歳代であった。全国順位は31位であった。

(平井 宏明 記)

14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

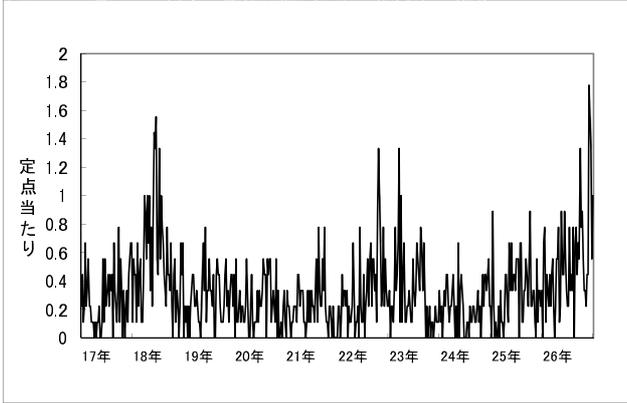


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

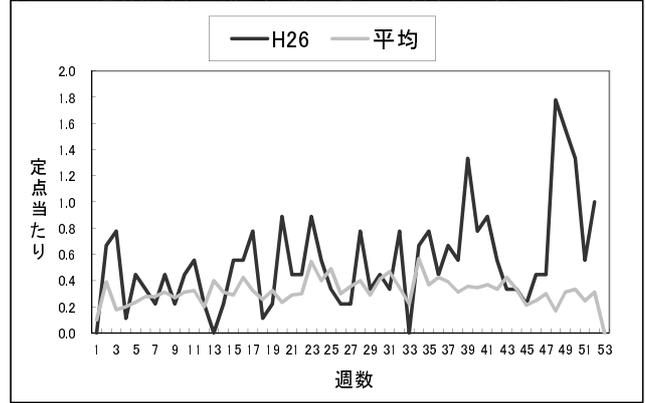


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

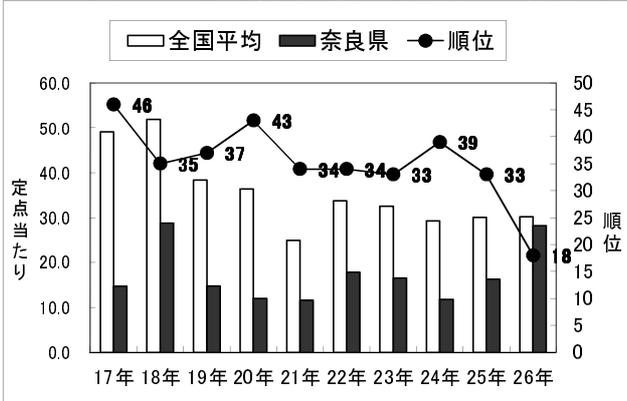
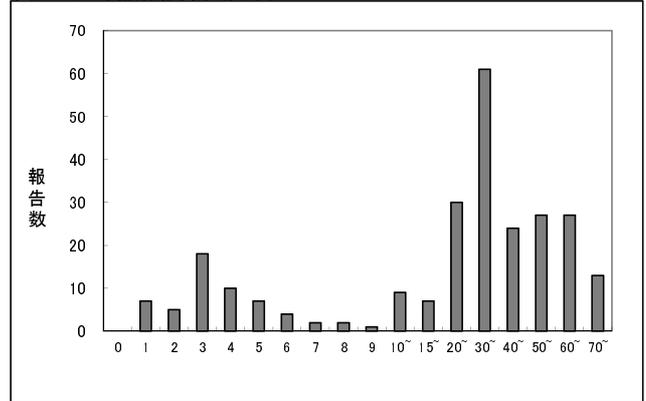


図 14-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

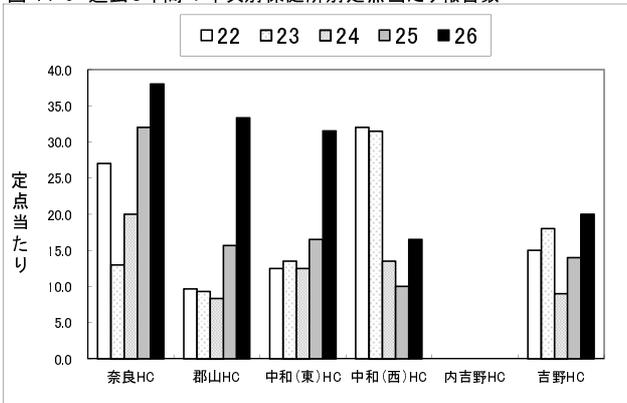
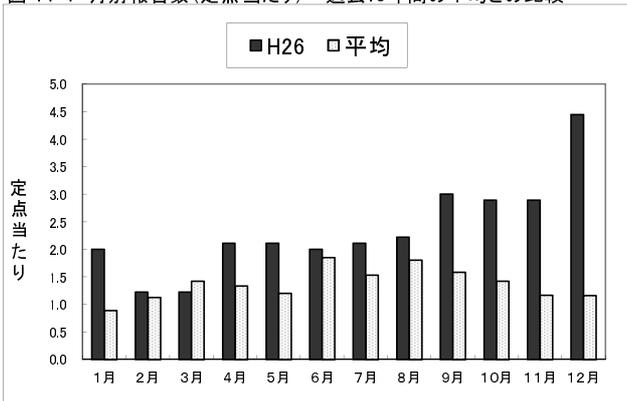


図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では254例の報告があり、この10年では最多であった。全国と比較しても、例年は全国平均の約1/2であるが、26年度は全国平均に近く順位も18位であった。前半から中盤にかけて例年を上回る週が多く見られ39週および48から50週にかけてピークが見られた。定点あたりでは奈良市が多く郡山、中和東がつつき、吉野、中和西は1/2程度であった。年齢的には3歳をピークに幼児が多く、ついで30歳代が多かった。

(平井 宏明 記)

基幹定点分(週報)

15.細菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

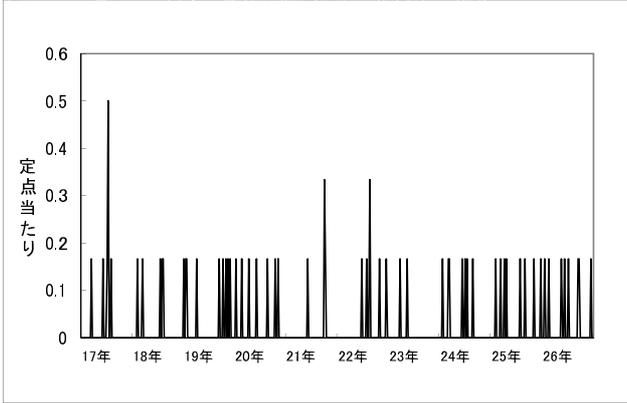


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

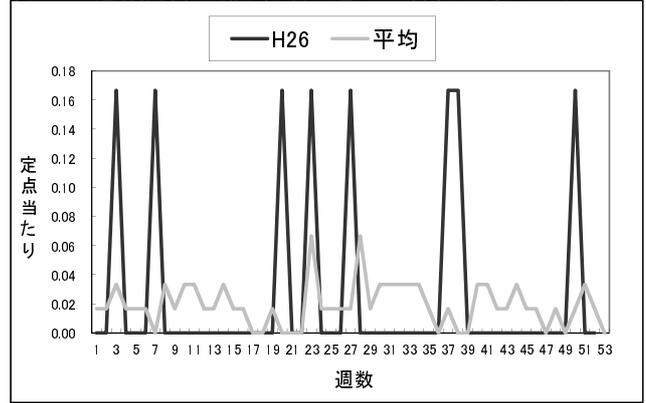


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

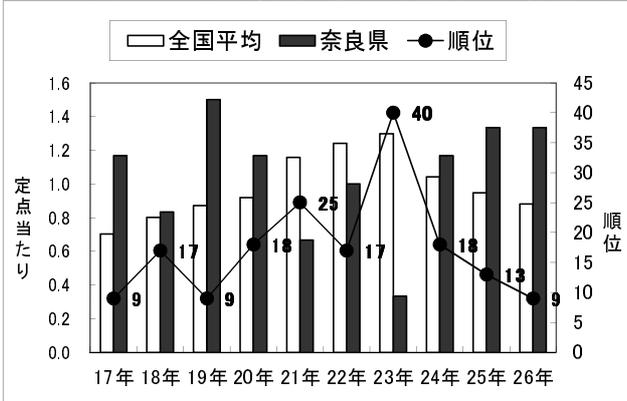
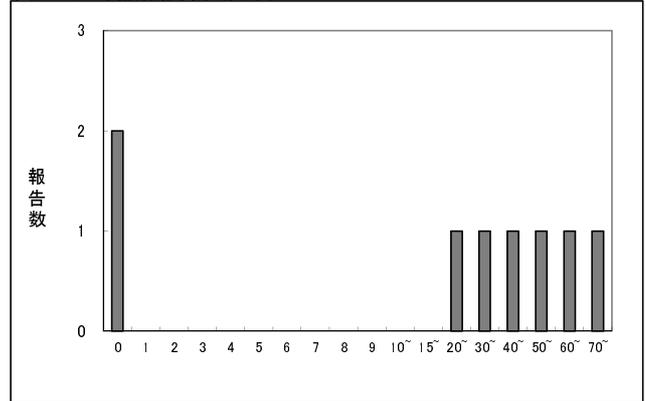


図 15-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

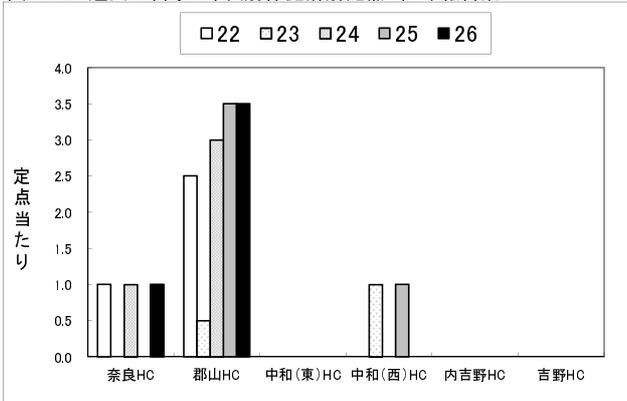
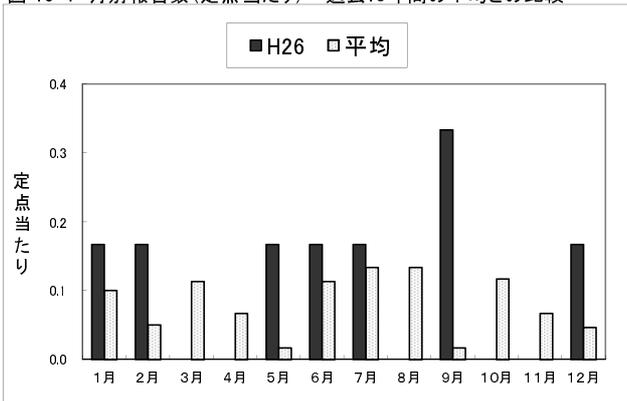


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年の全報告数は8例で、定点あたりの報告数は1.33であり、昨年と全く同様の推移を示した。
 昨年と比較し、1歳以上の小児症例数が減少しており、これは、Hibワクチン、結合型肺炎球菌ワクチンが普及してきたことによるものと考えられる。一方、小児では0歳児のみ報告がみられ、これは、新生児細菌性髄膜炎の原因菌である大腸菌またはB群溶連菌の関与が示唆される。

(矢野 寿一 記)

16.無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

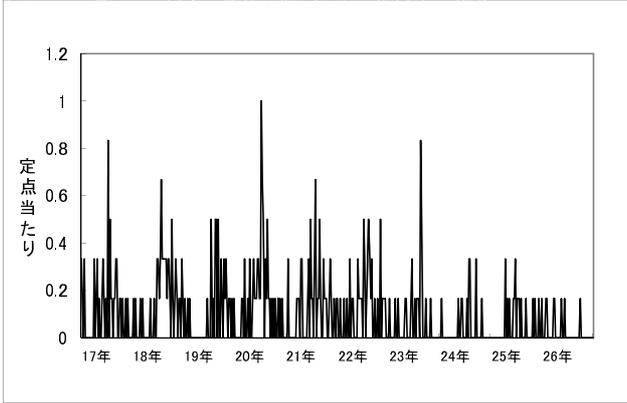


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

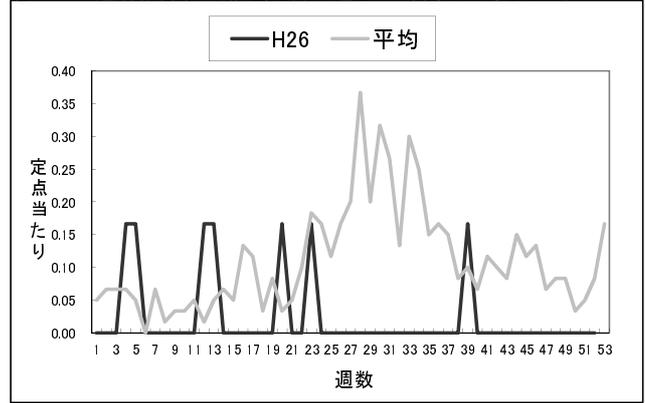


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

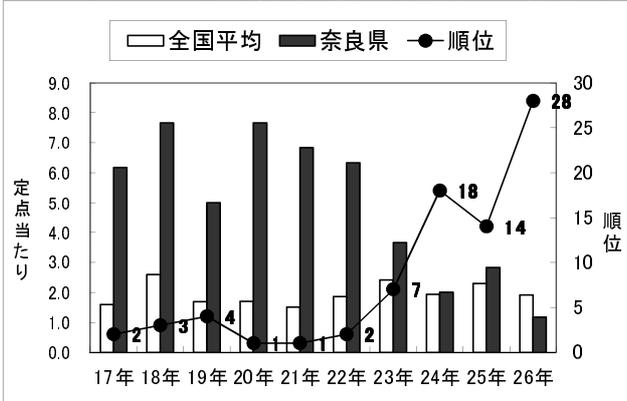
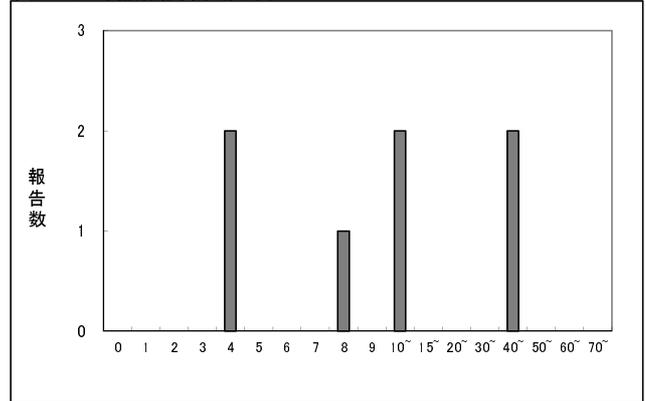


図 16-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

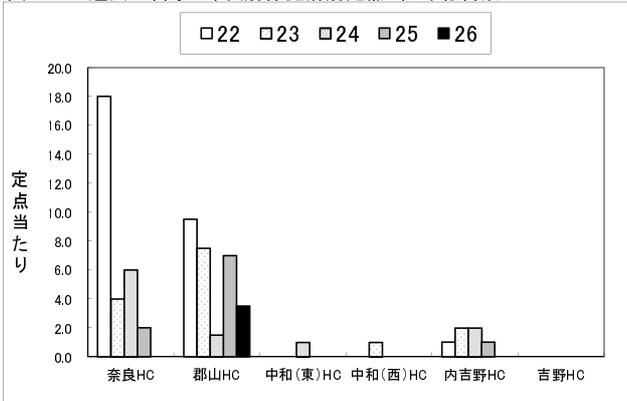
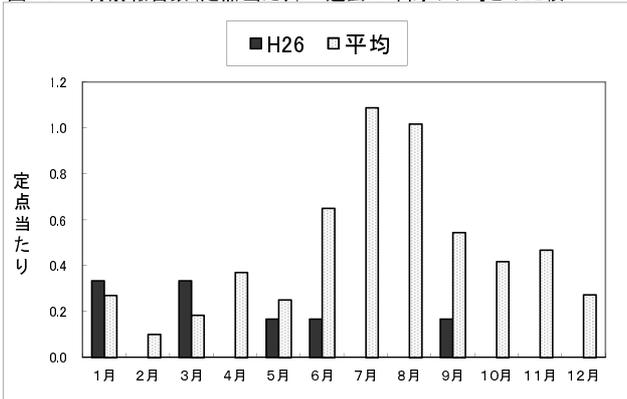


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年の全報告数は7例で、定点あたりの報告数は1.16で、平成25年の17例、2.83より大きく改善している。この改善傾向は平成23年頃よりの傾向である。例年、本県は無菌性髄膜炎が全国平均と比較し高く、順位も一桁台であったが、徐々に減少傾向にあり、全国平均も下がってきている。特に平成26年は、平成25年に比べ0歳児の無菌性髄膜炎の報告が0と大きく減少している。

(矢野 寿一 記)

17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

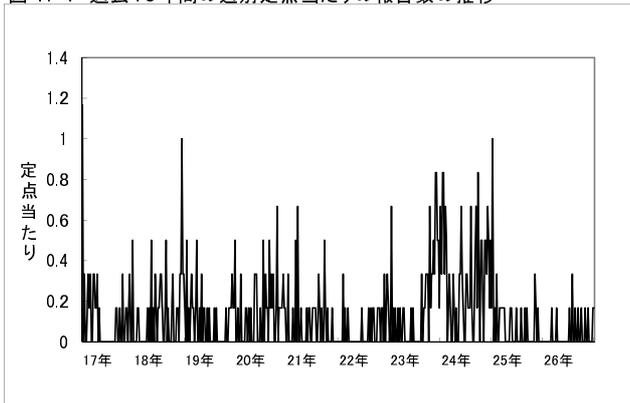


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

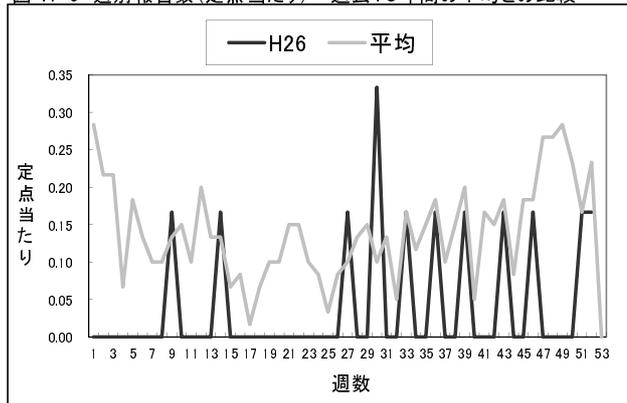


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

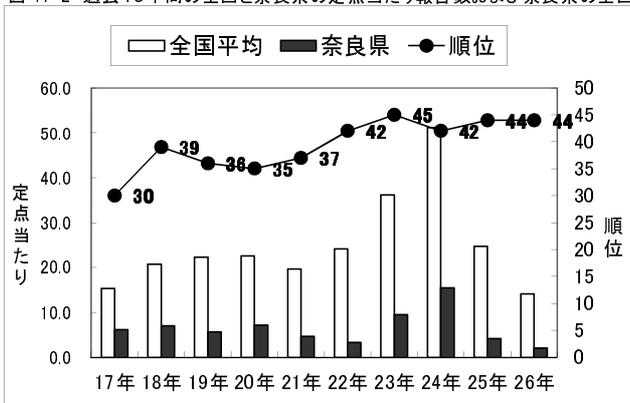
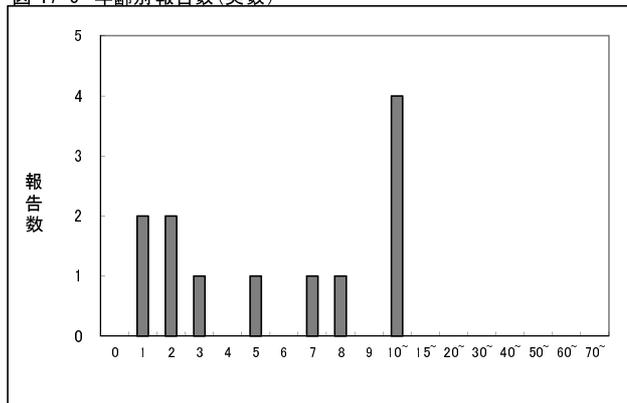


図 17-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

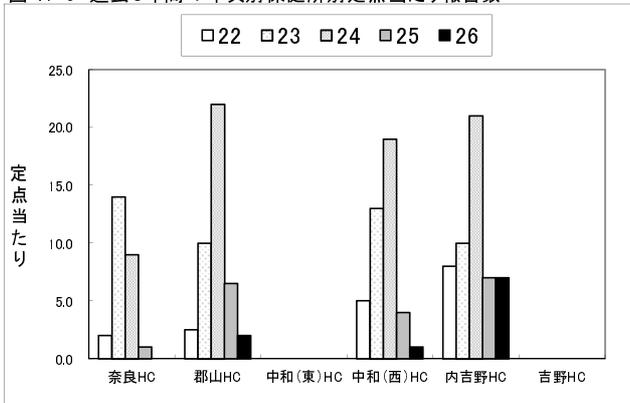
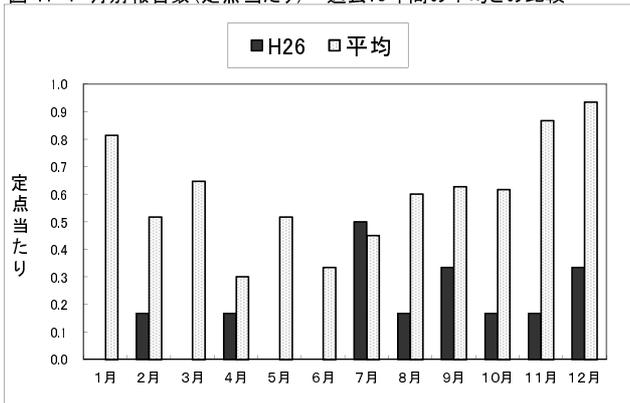


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年における全報告数は12例、定点あたりの報告数は2.0で、平成25年における25例、4.17と比較し減少している。本県は全国と比較して、例年マイコプラズマ肺炎の報告数は低いが、本年も44位とその傾向が見られた。この減少傾向は全国的なものであり、全国順位は前年と同じである。

平成25年に大きく流行したマクロライド耐性マイコプラズマは落ち着いたようであるが、小児に使用できるキノロン系薬が販売されたことから、今後はフルオロキノロン耐性マイコプラズマの流行も懸念されており、本年は件数が減少したとは言え、今後の動向に注意が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

18. クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

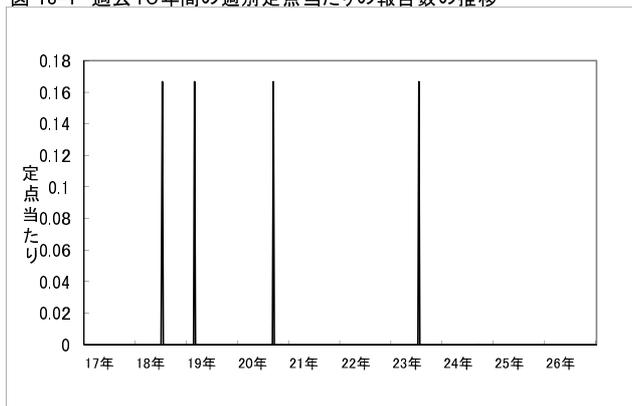


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

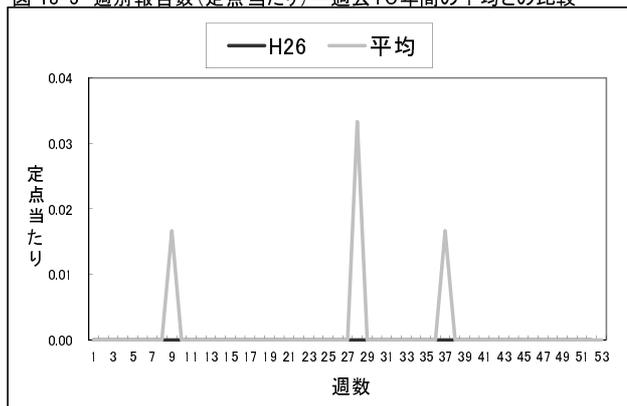


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

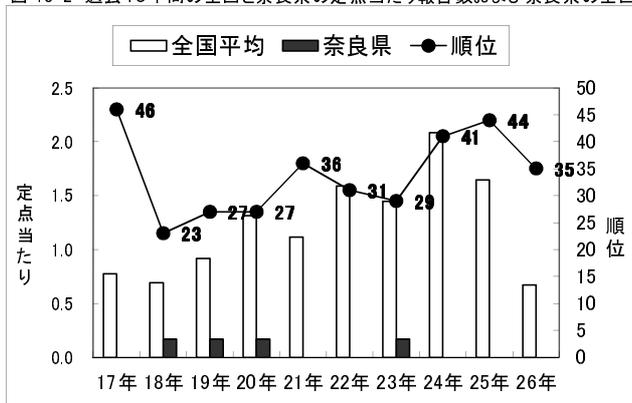
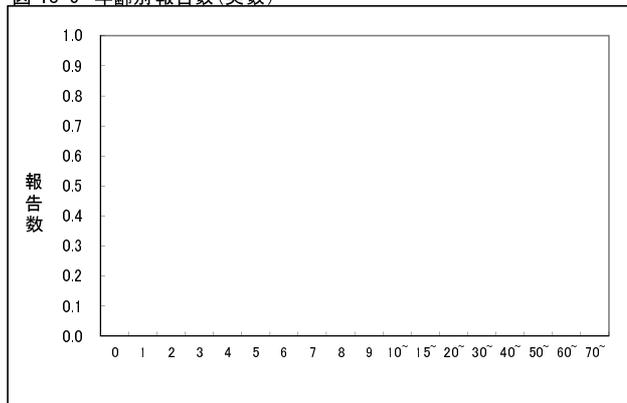


図 18-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

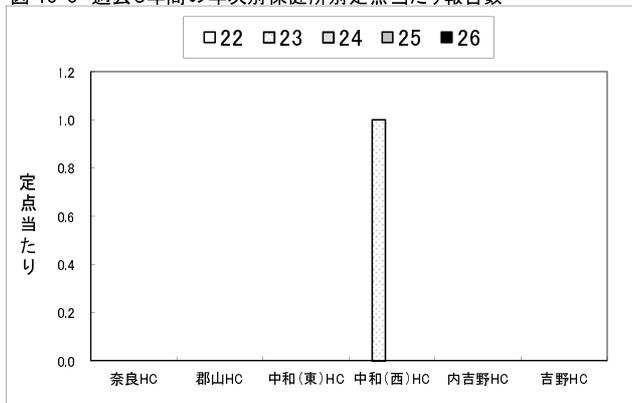
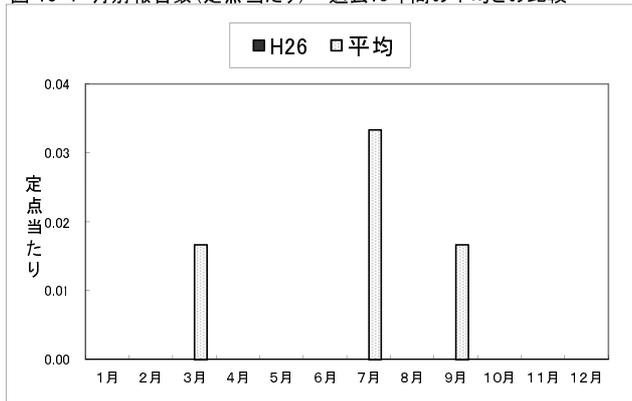


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

クラミジア肺炎は、平成25年に引き続き、奈良県では報告はみられなかった。しかし、クラミジア肺炎は急性期における診断が難しいため、隠れたクラミジア肺炎が存在する可能性も充分考えられる。

(矢野 寿一 記)

19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

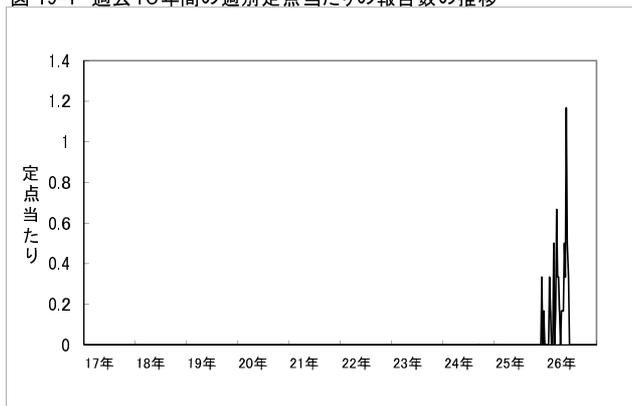


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

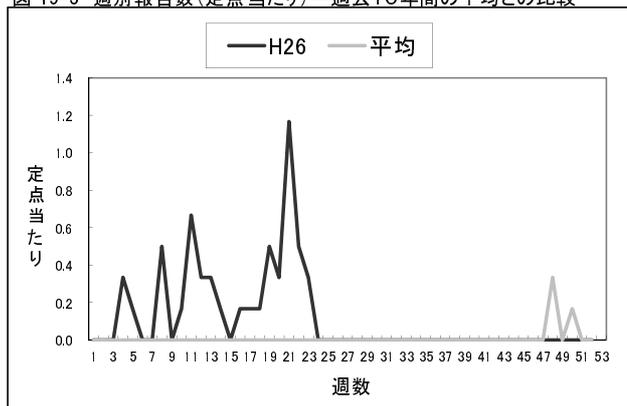


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

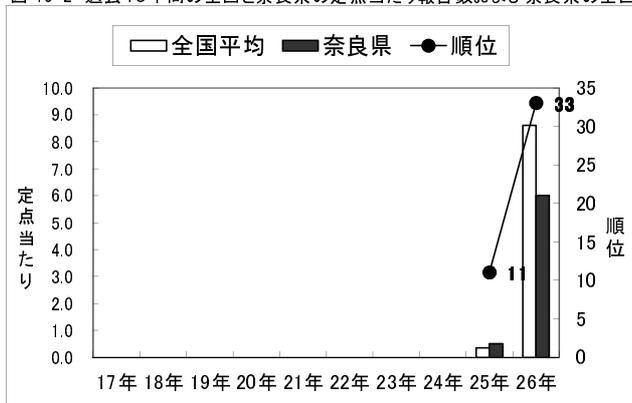
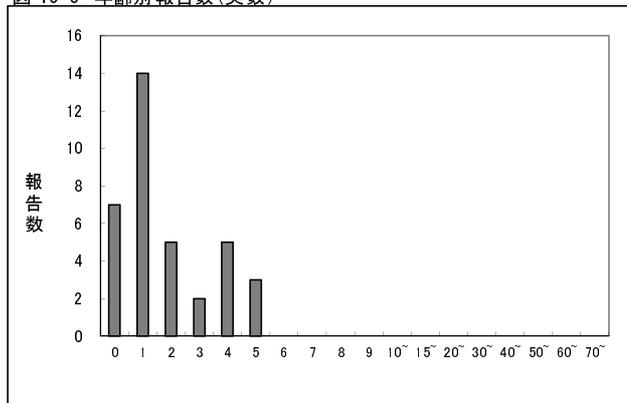


図 19-6 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

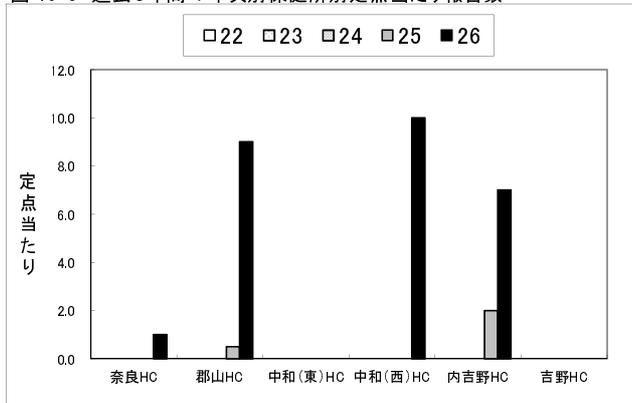
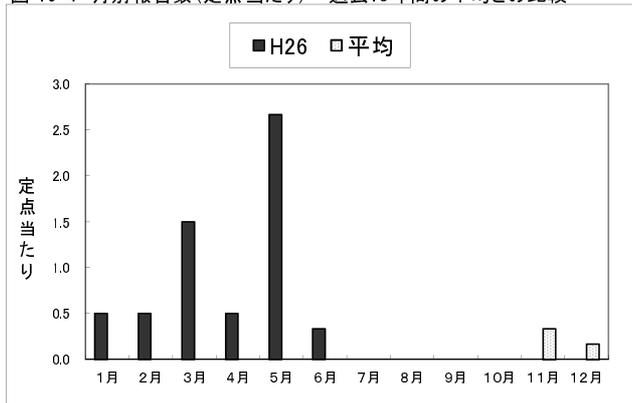


図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成26年が、ロタウイルスによる感染性胃腸炎が基幹定点報告疾患となり(昨年10月14日より新たに追加)、1年間を通して届け出を受けた初年となった。

全報告数:36例、定点当たりの報告数:6.00(全国平均:8.61)で、道府県別定点当たりの報告数の全国順位は33位だった。

全報告数が少ないが、保健所別に基幹定点当たりの報告数をみると、奈良市保健所:1.00、郡山保健所:9.00、中和(西)保健所:10.00、内吉野保健所:7.00となっており、中和(東)保健所と吉野保健所では報告がなかった。

年間届け出を受けた初年における平成26年の傾向として、月別・週別に基幹定点当たりの報告数では、感染性胃腸炎(ロタウイルス以外)の流行が一旦落ち着く早春3月頃(第12週前後)からの報告数が多くなり始め、5月(第20週前後)が最多の報告数だった。また、6月(第24週)以降での報告はなかった。

年齢別に実報告数をみると、全例が0～5歳の乳幼児で、やはり0歳(7例)、1歳(14例)で全体の60%弱を占めていた。その他の年代では、2歳:5例、3歳:2例、4歳:5例、5歳:3例程度の報告だった。

なお、基幹定点かつ小児科定点指定医療機関においては、小児科定点報告疾患である感染性胃腸炎の届出も、必ず併せて行っていただくよう改めてお願いしたい。

(村井 孝行 記)

性感染症(STD)定点分

20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

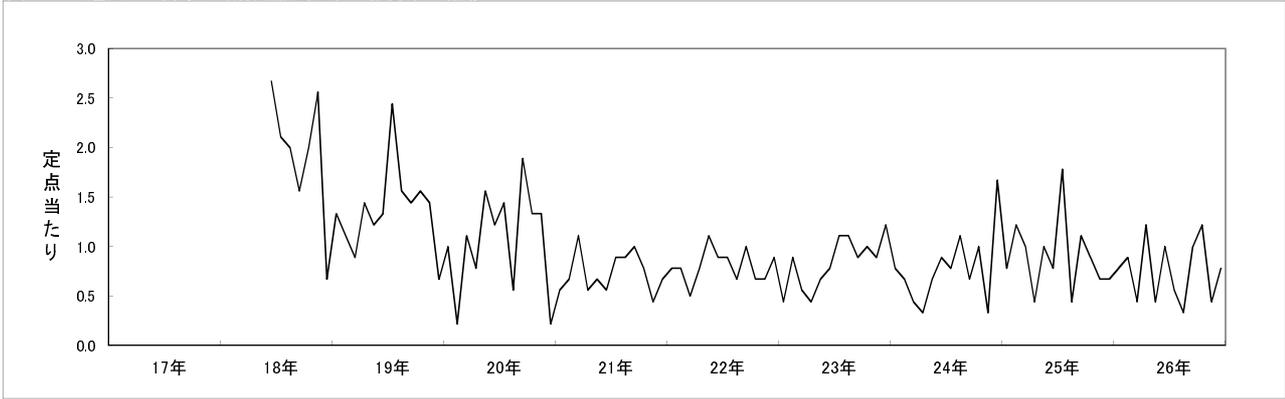


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

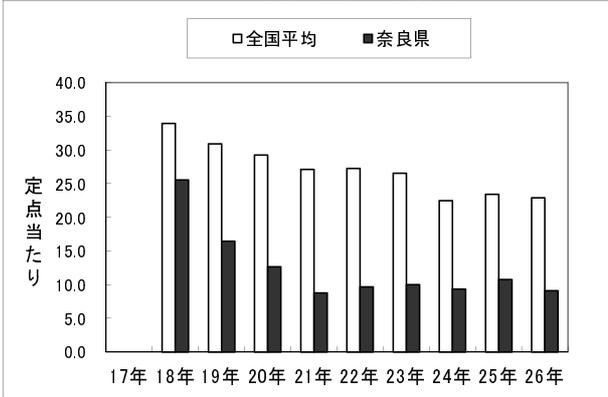
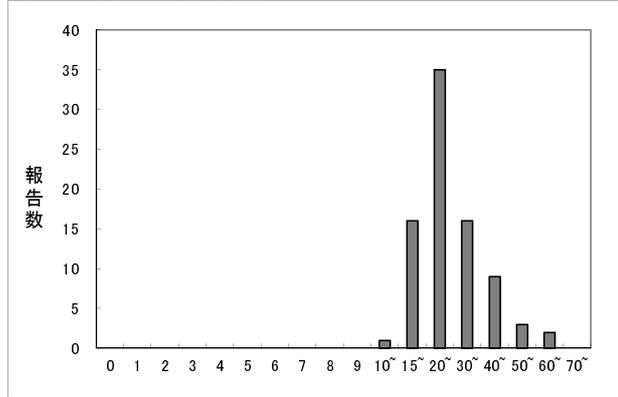
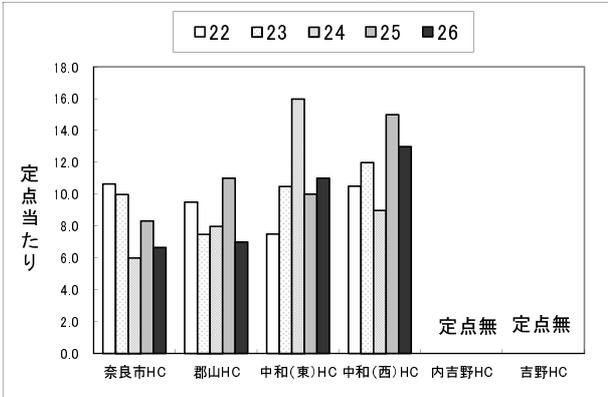


図 20-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

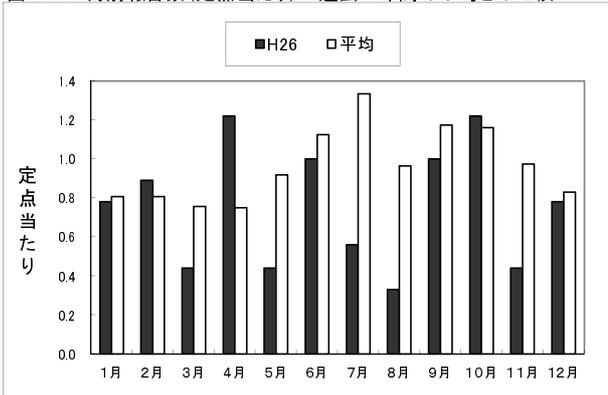


コメント

例年通り、STD4疾患では最多報告数であった。報告総数は最近5年間で最低であった。奈良県の報告数は全国平均より低い、その年別動向は全国と同等。月別では例年と異なり7-8月が少なかった。年齢別では15-30歳の低年齢層が多いのが特徴であるが、20歳以下で報告数が増加しており、20-30歳代で減少している。少数ながら15歳以下の報告が見られ、感染者の若年化が懸念される。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

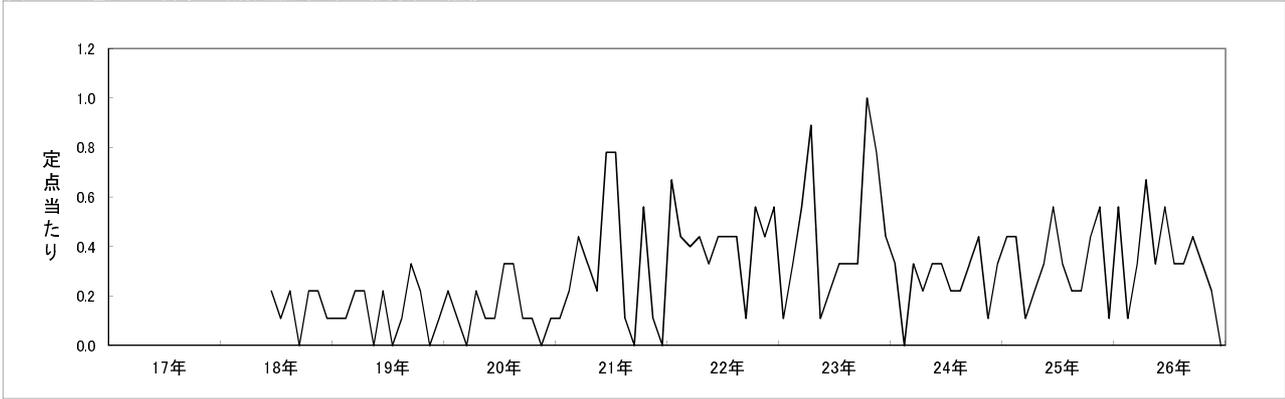


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

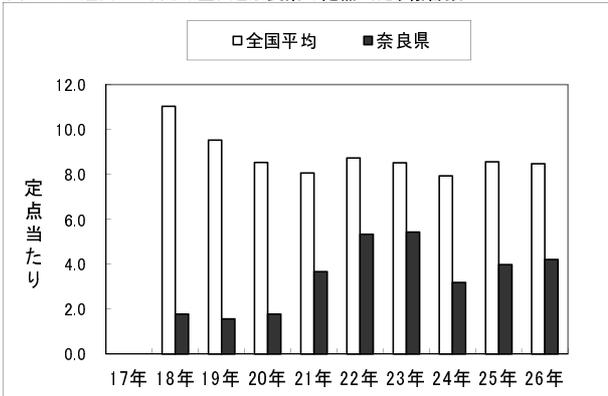
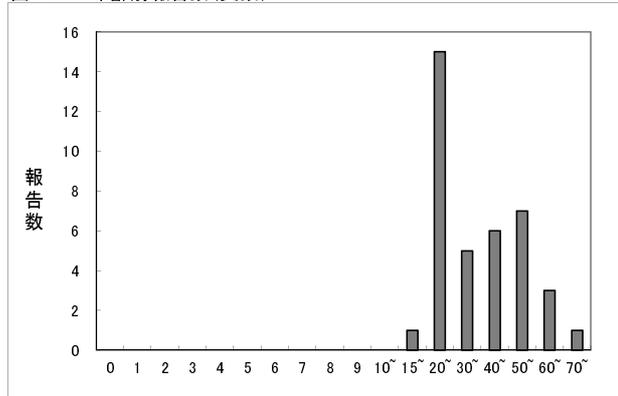
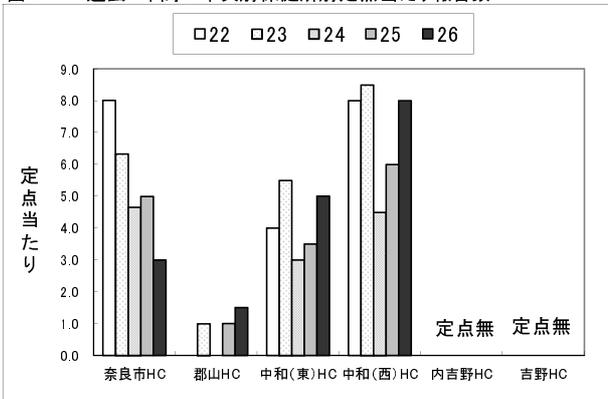


図 21-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

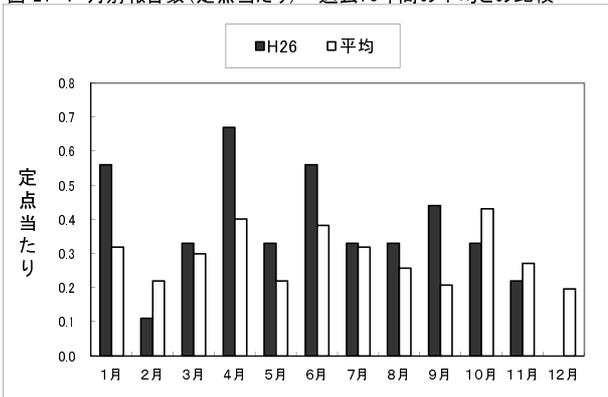


コメント

報告数はほぼ例年並みであった。平成23年まで年々増加していた報告数が平成24年に一旦減少したが、その後再び徐々に増加している。年齢別では30歳代の減少が著明であったが、他のSTD疾患以上に70歳代まで幅広い年齢層にわたっているのが特徴的である。月別では、4-6月の増加が顕著であった。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

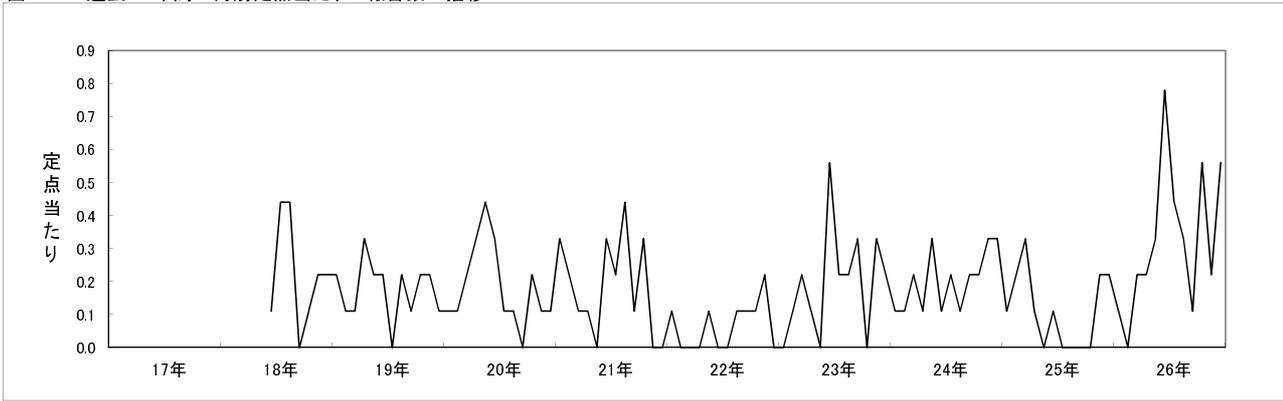


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

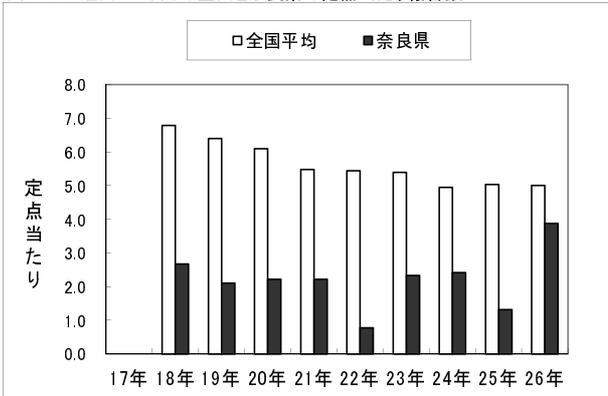
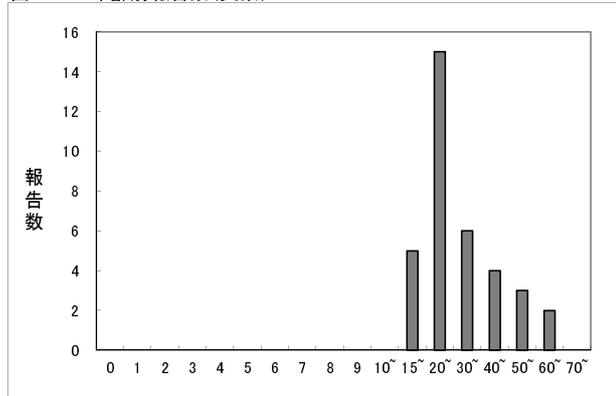
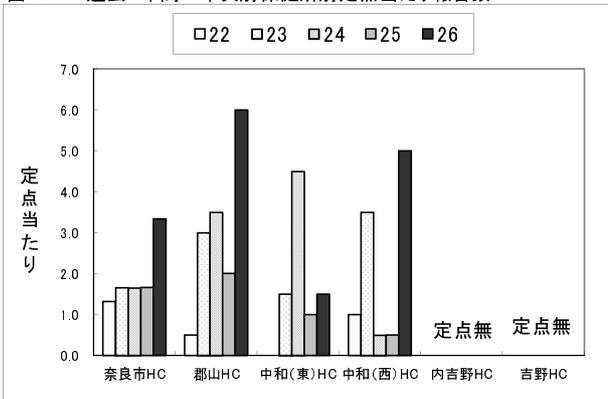


図 22-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

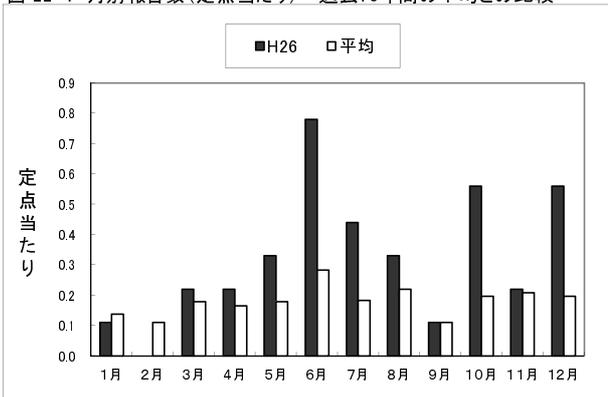


コメント

報告数はSTD4疾患では例年通り性器ヘルペスに次いで第4位であったが、平成25年に比較して約3倍に増加した。平成25年が例年より少なかったため、増加率がより高くなっているが、全国的にも平成25年の第46位から第26位と大幅に上昇している。年齢別にはやはり15-30歳の低年齢層で多く見られている。定点別では、郡山地区と葛城地区での増加が特に著明である。月別では、6-8月の夏場と10-12月の2相性で増加している。今後の動向が注目される。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

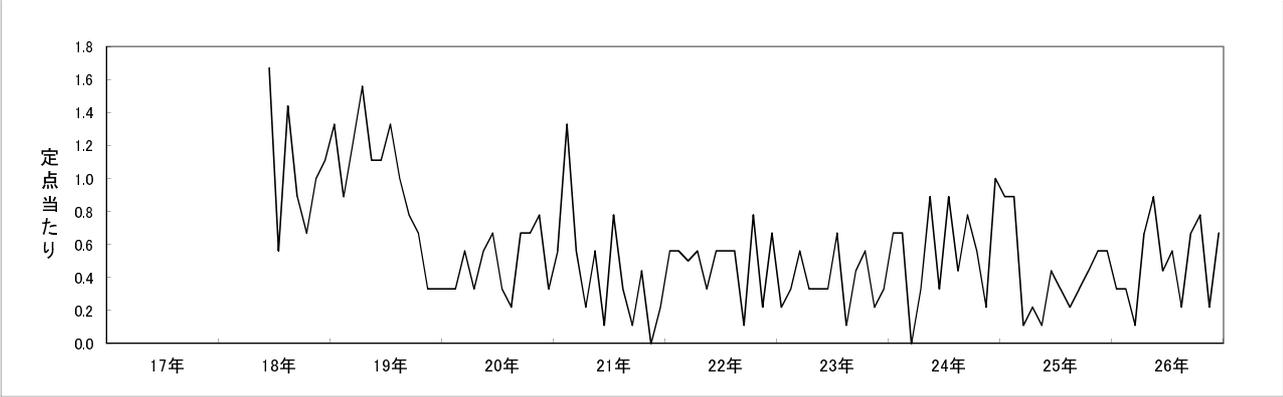


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

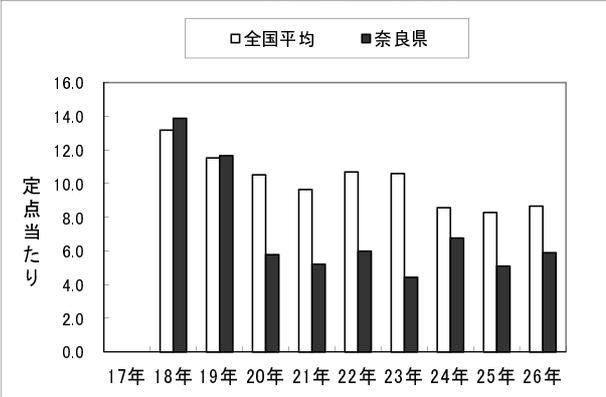
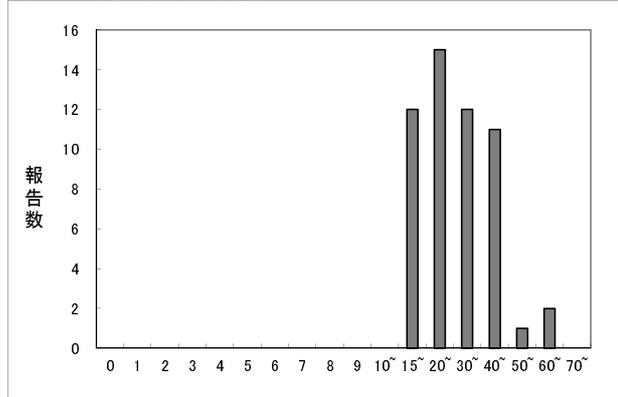
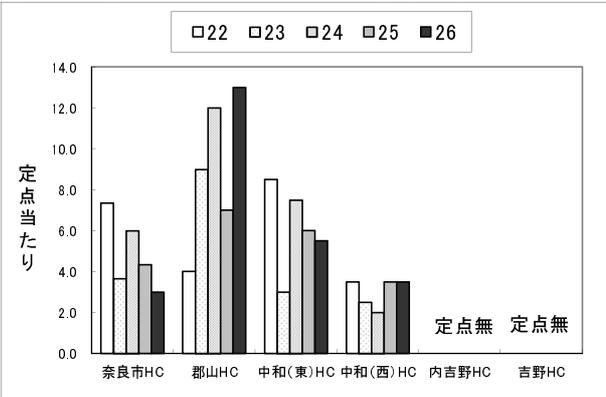


図 23-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

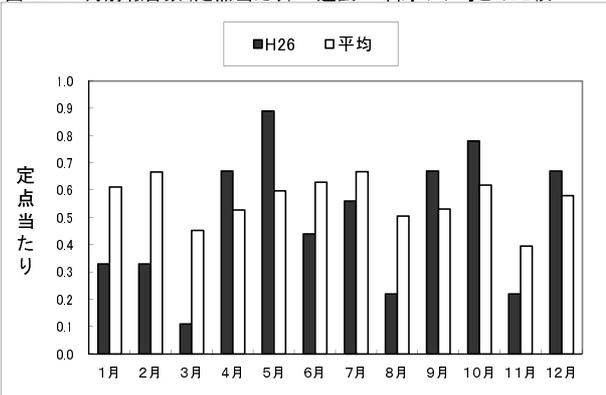


コメント

報告数は例年並みで、クラミジア感染症についてSTD4疾患では例年通り第2位であった。地区別では郡山地区での増加が著明であった。奈良地区、櫻井地区では減少傾向が続いている。年齢別では昨年は報告がなかった20歳以下の若年層での著明である。逆に、20歳代の報告が明らかに減少している。月別では8月を除く4-10月の報告が多い。

(三馬 省二 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(月報)

24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

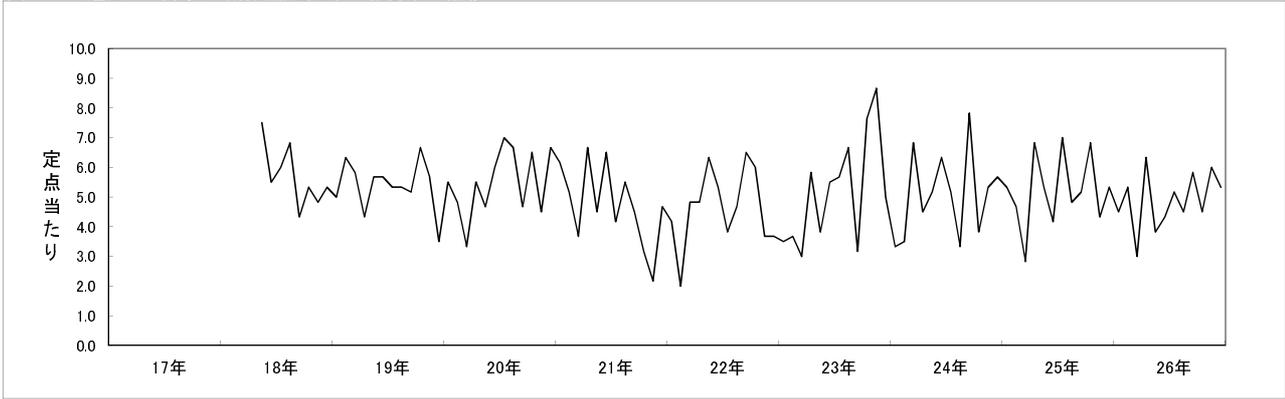


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

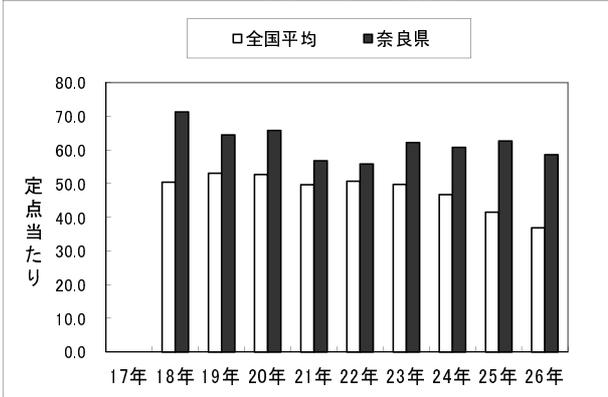
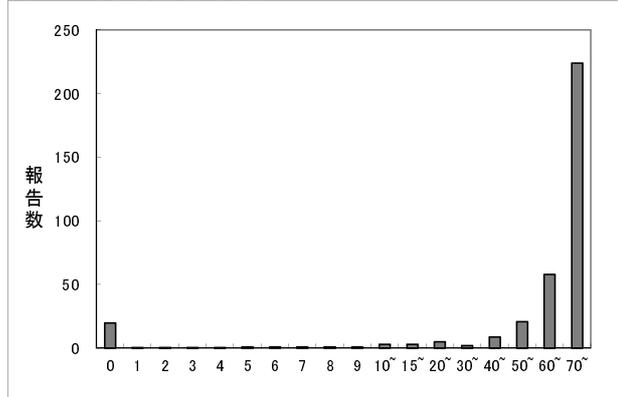
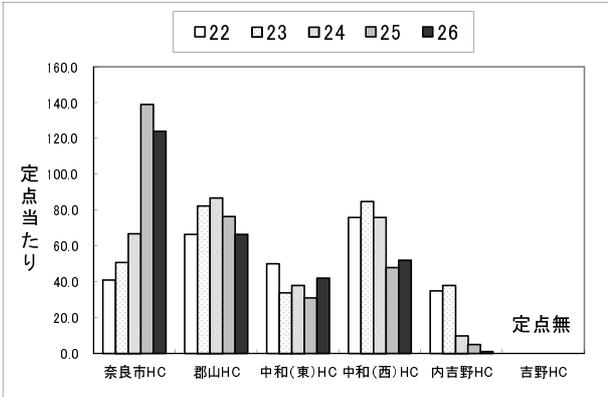


図 24-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

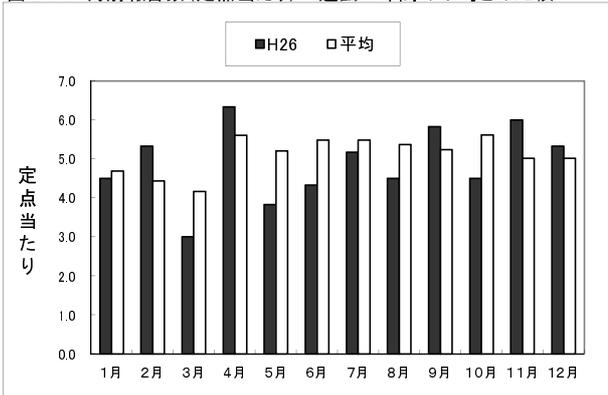


コメント

平成26年における全報告数は352例で、定点あたりの報告数は58.65と、平成25年の376例、62.65と比べ大きな変化はみられていない。例年奈良県は全国平均より高い傾向にあるが、この傾向も変わりはない。また、全国的にはMRSAの分離率は減少傾向にあるものの、奈良県では今のところその傾向がみられていない状況にある。地域別の定点あたり報告数は、奈良市で増加傾向にあり、医療関連感染対策のさらなる徹底が望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

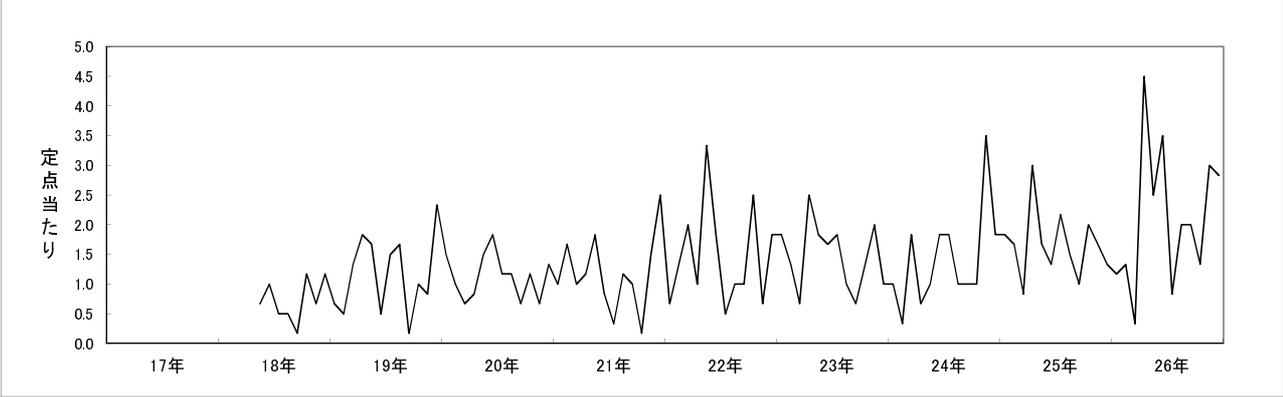


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

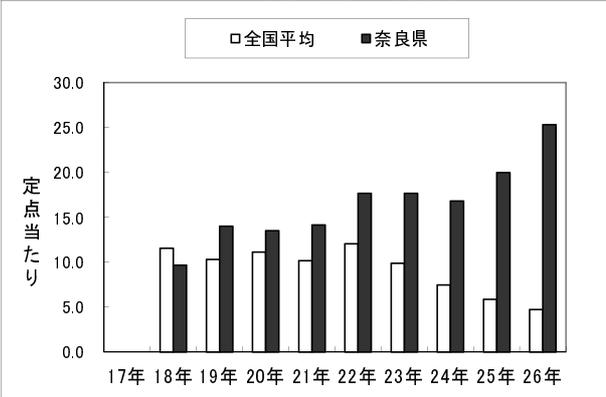
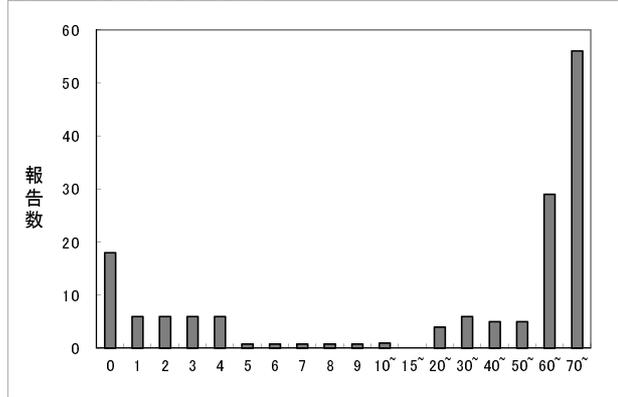
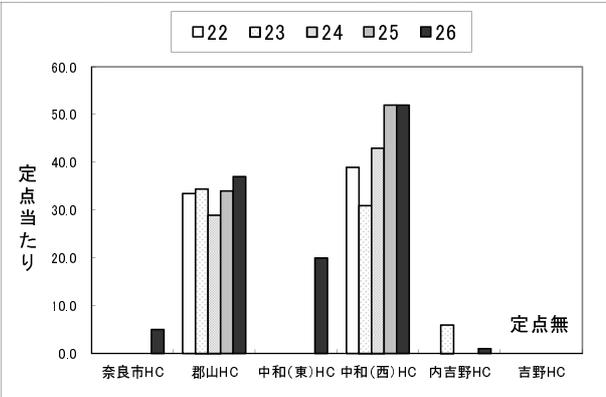


図 25-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



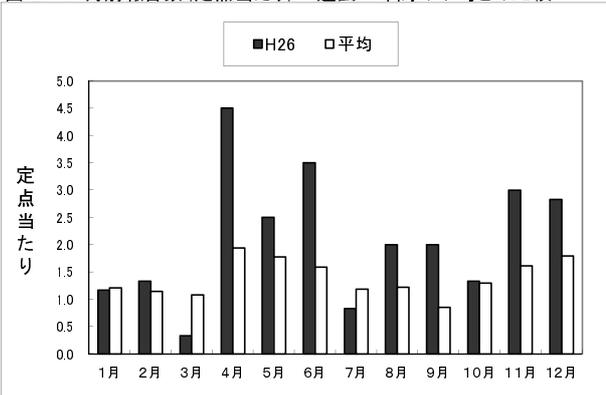
コメント

平成26年における全報告数は152例、定点あたりの報告数は25.32であった。

近年、肺炎球菌をとりまく環境が大きく変わり、2010年に7価結合型肺炎球菌ワクチンの任意接種が開始された(その後2013年4月に定期接種へ、2013年11月に13価結合型肺炎球菌ワクチンへ切り替え)。このワクチンは、ペニシリン耐性肺炎球菌の割合の高い血清型を中心に開発されたことから、ペニシリン耐性肺炎球菌分離率の減少はワクチン効果によるものとされている。このワクチンは小児を対象にしたものだが、集団的免疫効果によりワクチン非接種群への効果も知られている。全国的には、ペニシリン耐性肺炎球菌の分離率は減少傾向にあるが、奈良県においては、耐性肺炎球菌の報告数は増加傾向にあり、26年は全国ワーストとなってしまっている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆される。奈良県においても、結合型肺炎球菌ワクチン接種率の増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



26.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

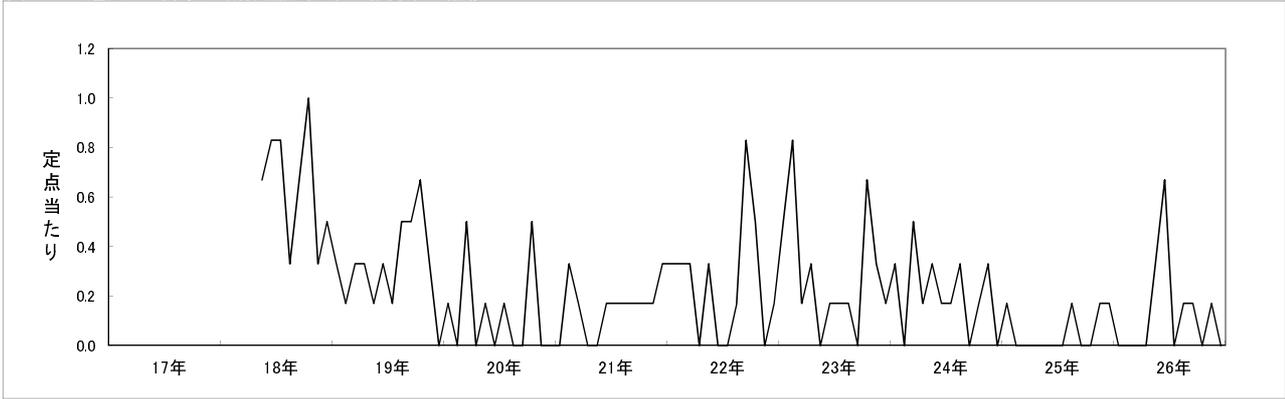


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

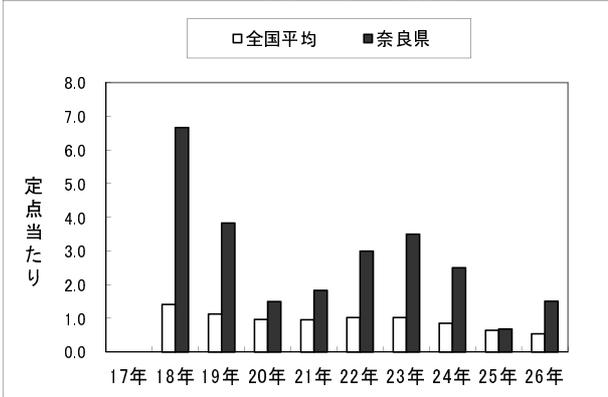
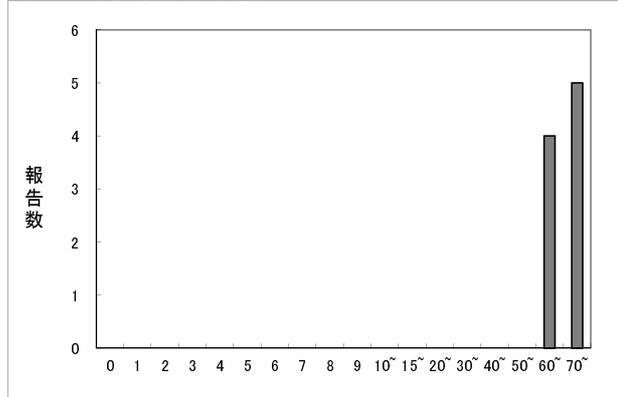
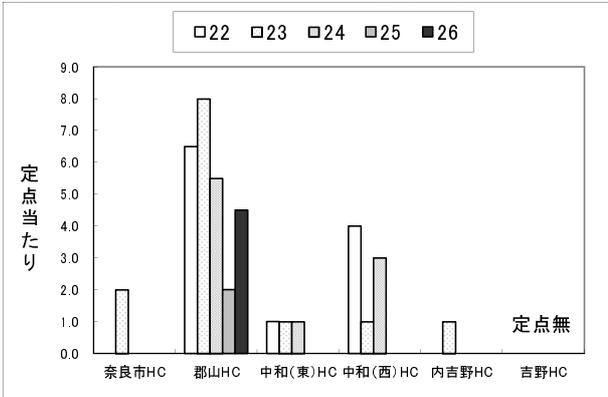


図 26-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

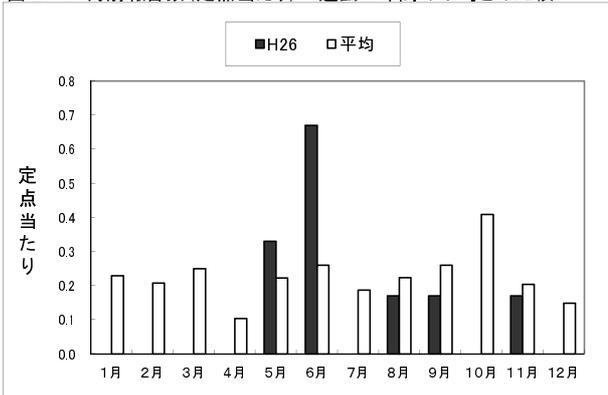


コメント

平成25年度における全報告数は9例で、定点あたりの報告数が1.51であり、平成25年度の4例、0.68と比較増加している。薬剤耐性緑膿菌感染症は全国的に減少傾向にあり、奈良県も昨年は全国平均においついたものの、本年は再び増加傾向に戻ってしまった。全国順位も昨年よくなっていたが、26年は全国4位と悪化している。地域別には郡山地区で例年報告数が多い。本耐性菌も医療関連感染による伝播拡散が多いことから、医療関連感染対策のさらなる徹底が望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



27.薬剤耐性アシネトバクター感染症

図 27-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

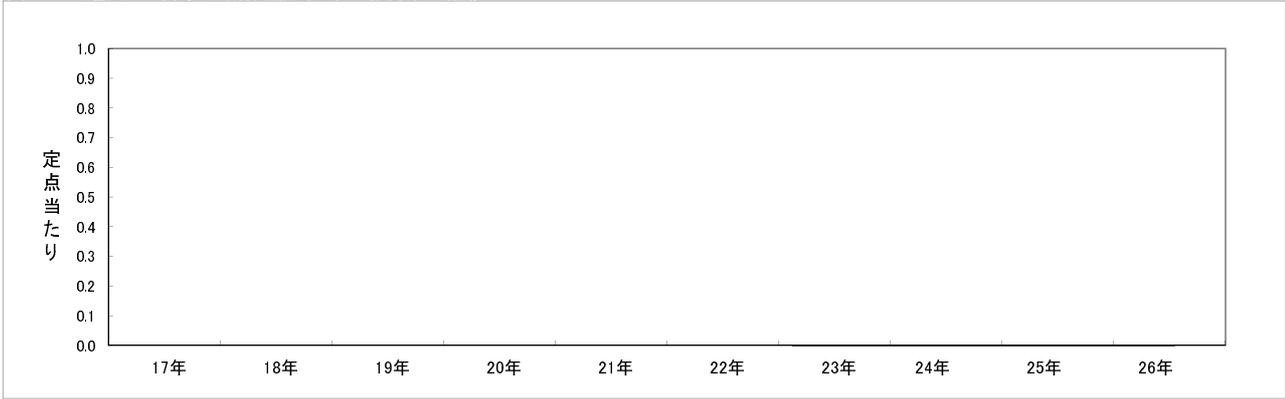


図 27-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

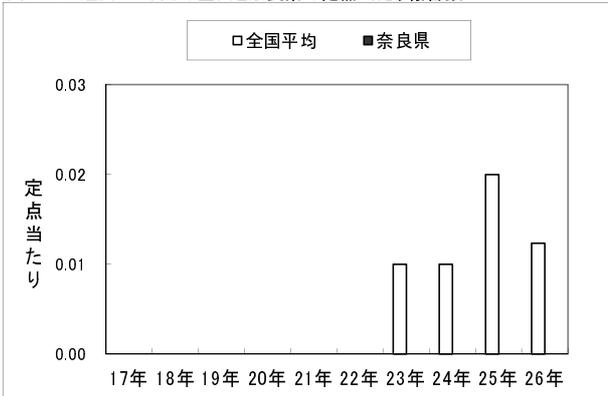
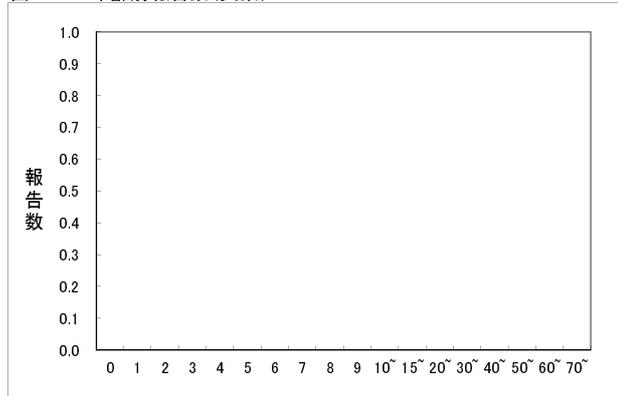


図 27-5 年齢別報告数(実数)



※H26年報から実数の報告数に変更しています

図 27-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

アシネトバクターは、土壌や河川水の中など自然環境中に生息する細菌です。健康な人の皮膚などからみつけることもありますが、通常は無害です。体力や免疫の弱まった人での感染では、死因となる場合や死に寄与することがあります。

全国では平成26年は8月までに男女ともに2件ずつ、計4件の報告がありました。男性は、45から49歳で1件、70歳以上で1件の報告がありました。また、女性は、65歳から69歳で1件、70歳以上で1件となっています。奈良県での報告はありません。

薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成26年9月から全数報告対象疾患となりました。

(感染症情報センター 記)

図 27-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

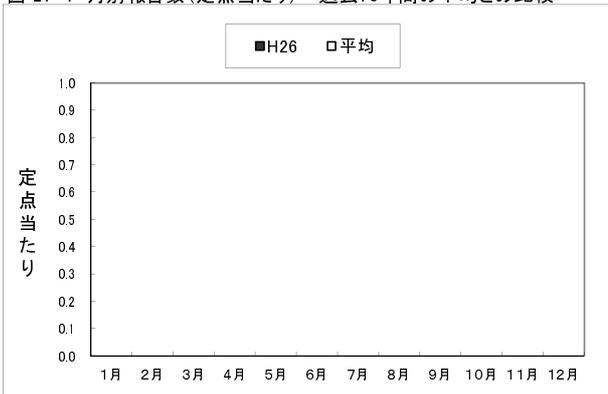


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	3,395	4,412	2,978	911	248	3	1	1	6	20	225	4,039	16,239
RSウイルス感染症	106	64	49	15	10	5	3	9	74	136	145	395	1,011
咽頭結膜熱	41	46	58	91	131	143	132	95	83	41	47	81	989
A群溶連菌咽頭炎	116	124	96	139	293	230	168	70	86	119	155	191	1,787
感染症胃腸炎	1,078	551	476	773	1,514	663	330	242	236	310	633	935	7,741
水痘	141	86	140	108	174	125	128	54	53	51	96	123	1,279
手足口病	3	1	2	1	11	40	55	27	19	94	54	120	427
伝染性紅斑	3	2	10	16	20	9	8	6	17	18	12	4	125
突発性発しん	31	26	26	50	72	58	71	46	65	82	43	54	624
百日咳	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
ヘルパンギーナ	1	0	2	14	33	206	831	138	21	21	4	2	1,273
流行性耳下腺炎	11	13	12	14	16	11	36	28	21	28	15	20	225
計	1,531	913	871	1,221	2,274	1,490	1,763	715	675	901	1,204	1,925	15,483
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
流行性角結膜炎	18	11	11	19	19	18	19	20	27	26	26	40	254
計	18	11	11	19	19	18	19	20	27	26	26	42	256
細菌性髄膜炎	1	1	0	0	1	1	1	0	2	0	0	1	8
無菌性髄膜炎	2	0	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0	7
マイコプラズマ肺炎	0	1	0	1	0	0	3	1	2	1	1	2	12
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	3	9	3	16	2	0	0	0	0	0	0	36
計	6	5	11	4	18	4	4	1	5	1	1	3	63
性器クラミジア感染症	7	8	4	11	4	9	5	3	9	11	4	7	82
性器ヘルペスウイルス感染症	5	1	3	6	3	5	3	3	4	3	2	0	38
尖圭コンジローマ	1	0	2	2	3	7	4	3	1	5	2	5	35
淋菌感染症	3	3	1	6	8	4	5	2	6	7	2	6	53
計	16	12	10	25	18	25	17	11	20	26	10	18	208
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	27	32	18	38	23	26	31	27	35	27	36	32	352
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	7	8	2	27	15	21	5	12	12	8	18	17	152
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	2	4	0	1	1	0	1	0	9
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	34	40	20	65	40	51	36	40	48	35	55	49	513

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	62.87	81.70	55.15	16.87	4.59	0.06	0.02	0.02	0.11	0.37	4.17	74.80	300.72
RSウイルス感染症	3.12	1.88	1.44	0.44	0.29	0.15	0.09	0.26	2.18	4.00	4.26	11.62	29.74
咽頭結膜熱	1.21	1.35	1.71	2.68	3.85	4.21	3.88	2.79	2.44	1.21	1.38	2.38	29.09
A群溶連菌咽頭炎	3.41	3.65	2.82	4.09	8.62	6.76	4.94	2.06	2.53	3.50	4.56	5.62	52.56
感染症胃腸炎	31.71	16.21	14.00	22.74	44.53	19.50	9.71	7.12	6.94	9.12	18.62	27.50	227.68
水痘	4.15	2.53	4.12	3.18	5.12	3.68	3.76	1.59	1.56	1.50	2.82	3.62	37.62
手足口病	0.09	0.03	0.06	0.03	0.32	1.18	1.62	0.79	0.56	2.76	1.59	3.53	12.56
伝染性紅斑	0.09	0.06	0.29	0.47	0.59	0.26	0.24	0.18	0.50	0.53	0.35	0.12	3.68
突発性発しん	0.91	0.76	0.76	1.47	2.12	1.71	2.09	1.35	1.91	2.41	1.26	1.59	18.35
百日咳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.03	0.00	0.00	0.06
ヘルパンギーナ	0.03	0.00	0.06	0.41	0.97	6.06	24.44	4.06	0.62	0.62	0.12	0.06	37.44
流行性耳下腺炎	0.32	0.38	0.35	0.41	0.47	0.32	1.06	0.82	0.62	0.82	0.44	0.59	6.62
計	45.03	26.85	25.62	35.91	66.88	43.82	51.85	21.03	19.85	26.50	35.41	56.62	455.38
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.22	0.22
流行性角結膜炎	2.00	1.22	1.22	2.11	2.11	2.00	2.11	2.22	3.00	2.89	2.89	4.44	28.22
計	2.00	1.22	1.22	2.11	2.11	2.00	2.11	2.22	3.00	2.89	2.89	4.67	28.44
細菌性髄膜炎	0.17	0.17	0.00	0.00	0.17	0.17	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.17	1.33
無菌性髄膜炎	0.33	0.00	0.33	0.00	0.17	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	1.17
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.50	0.17	0.33	0.17	0.17	0.33	2.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.50	0.50	1.50	0.50	2.67	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.00
計	1.00	0.83	1.83	0.67	3.00	0.67	0.67	0.17	0.83	0.17	0.17	0.50	10.50
性器クラミジア感染症	0.78	0.89	0.44	1.22	0.44	1.00	0.56	0.33	1.00	1.22	0.44	0.78	9.11
性器ヘルペスウイルス感染症	0.56	0.11	0.33	0.67	0.33	0.56	0.33	0.33	0.44	0.33	0.22	0.00	4.22
尖圭コンジローマ	0.11	0.00	0.22	0.22	0.33	0.78	0.44	0.33	0.11	0.56	0.22	0.56	3.89
淋菌感染症	0.33	0.33	0.11	0.67	0.89	0.44	0.56	0.22	0.67	0.78	0.22	0.67	5.89
計	1.78	1.33	1.11	2.78	2.00	2.78	1.89	1.22	2.22	2.89	1.11	2.00	23.11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	4.50	5.33	3.00	6.33	3.83	4.33	5.17	4.50	5.83	4.50	6.00	5.33	58.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.17	1.33	0.33	4.50	2.50	3.50	0.83	2.00	2.00	1.33	3.00	2.83	25.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.67	0.00	0.17	0.17	0.00	0.17	0.00	1.50
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	5.67	6.67	3.33	10.83	6.67	8.50	6.00	6.67	8.00	5.83	9.17	8.17	85.50

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	
インフルエンザ	50	154	493	568	664	682	948	1,092	1,164	1,178	1,051	3,284	668	752	1,092	1,098	602	381	201	117	16,239	
RSウイルス感染症	136	229	302	175	87	44	16	10	2	6	0	1	2	1								1,011
咽頭結膜熱	9	65	200	147	154	109	102	67	40	23	17	34	3	19								989
A群溶連菌咽頭炎	2	7	43	66	137	250	246	223	216	182	123	220	15	57								1,787
感染症胃腸炎	56	446	1,052	793	629	662	519	426	429	296	266	696	273	1,198								7,741
水痘	21	60	179	182	207	204	137	110	69	44	30	25	2	9								1,279
手足口病	0	19	128	95	85	37	26	14	5	6	4	5	0	3								427
伝染性紅斑	0	4	13	5	24	30	24	10	5	5	0	4	0	1								125
突発性発しん	24	268	288	36	3	3	1	1	0	0	0	0	0	0								624
百日咳	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1								2
ヘルパンギーナ	8	57	290	269	201	185	115	56	31	12	17	24	2	6								1,273
流行性耳下腺炎	0	2	13	19	24	30	40	19	27	23	5	18	2	3								225
計	256	1,158	2,508	1,787	1,551	1,554	1,226	936	824	597	462	1,027	299	1,298	0	0	0	0	0	0	0	15,483
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		2
流行性角結膜炎	0	0	7	5	18	10	7	4	2	2	1	9	7	30	61	24	27	27	13			254
計	0	0	7	5	18	10	7	4	2	2	1	9	7	30	63	24	27	27	13	0		256

年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計
細菌性髄膜炎	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	8
無菌性髄膜炎	0	2	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	7	
マイコプラズマ肺炎	0	5	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	26	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	
計	9	33	7	6	0	1	0	1	0	2	1	1	0	0	1	63	
性器クラミジア感染症	0	0	0	1	16	23	12	9	7	8	1	3	0	2	0	82	
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	1	4	11	2	3	4	2	4	3	2	1	38	
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	5	7	8	5	1	3	1	0	3	2	0	35	
淋菌感染症	0	0	0	0	12	8	7	9	3	7	4	1	0	1	1	53	
計	0	0	0	1	34	42	38	25	14	22	8	8	6	7	2	208	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	18	24	4	1	0	2	2	3	3	5	0	3	2	12	17	152	
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	18	24	4	1	0	2	2	3	3	5	0	3	2	12	21	161	

年齢別報告数(実数:10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
インフルエンザ	204.0	493.0	568.0	664.0	682.0	948.0	1,092.0	1,164.0	1,178.0	1,051.0	656.8	133.6	75.2	109.2	109.8	60.2	38.1	20.1	11.7
RSウイルス感染症	365.0	302.0	175.0	87.0	44.0	16.0	10.0	2.0	6.0	0.0	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	74.0	200.0	147.0	154.0	109.0	102.0	67.0	40.0	23.0	17.0	6.8	0.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	9.0	43.0	66.0	137.0	250.0	246.0	223.0	216.0	182.0	123.0	44.0	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	502.0	1,052.0	793.0	629.0	662.0	519.0	426.0	429.0	296.0	266.0	139.2	54.6	17.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	81.0	179.0	182.0	207.0	204.0	137.0	110.0	69.0	44.0	30.0	5.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	19.0	128.0	95.0	85.0	37.0	26.0	14.0	5.0	6.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	4.0	13.0	5.0	24.0	30.0	24.0	10.0	5.0	5.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	292.0	288.0	36.0	3.0	3.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	65.0	290.0	269.0	201.0	185.0	115.0	56.0	31.0	12.0	17.0	4.8	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	2.0	13.0	19.0	24.0	30.0	40.0	19.0	27.0	23.0	5.0	3.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,414.0	2,508.0	1,787.0	1,551.0	1,554.0	1,226.0	936.0	824.0	597.0	462.0	205.4	59.8	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	0.0	7.0	5.0	18.0	10.0	7.0	4.0	2.0	2.0	1.0	1.8	1.4	3.0	6.1	2.4	2.7	2.7	1.3	0.0
計	0.0	7.0	5.0	18.0	10.0	7.0	4.0	2.0	2.0	1.0	1.8	1.4	3.0	6.3	2.4	2.7	2.7	1.3	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~
インフルエンザ	204.0	671.0	863.2	133.6	88.6	23.3
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~	
RSウイルス感染症	365.0	124.8	2.1	0.4	0.0	
咽頭結膜熱	74.0	142.4	20.1	0.6	0.3	
A群溶連菌咽頭炎	9.0	148.4	107.1	3.0	0.8	
感染症胃腸炎	502.0	731.0	234.8	54.6	17.1	
水痘	81.0	181.8	30.9	0.4	0.1	
手足口病	19.0	74.2	3.8	0.0	0.0	
伝染性紅斑	4.0	19.2	2.7	0.0	0.0	
突発性発しん	292.0	66.2	0.1	0.0	0.0	
百日咳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	65.0	212.0	15.6	0.4	0.1	
流行性耳下腺炎	2.0	25.2	10.2	0.4	0.0	
計	1,414.0	1,725.2	427.3	59.8	18.5	

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	25.8%	7.2%	0.5%	0.7%	0.1%
咽頭結膜熱	5.2%	8.3%	4.7%	1.0%	1.5%
A群溶連菌咽頭炎	0.6%	8.6%	25.1%	5.0%	4.4%
感染症胃腸炎	35.5%	42.4%	54.9%	91.3%	92.3%
水痘	5.7%	10.5%	7.2%	0.7%	0.7%
手足口病	1.3%	4.3%	0.9%	0.0%	0.2%
伝染性紅斑	0.3%	1.1%	0.6%	0.0%	0.1%
突発性発しん	20.7%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
百日咳	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
ヘルパンギーナ	4.6%	12.3%	3.6%	0.7%	0.5%
流行性耳下腺炎	0.1%	1.5%	2.4%	0.7%	0.2%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	4,066	4,658	2,417	3,999	399	700	8,724	6,416	1,099	16,239
RSウイルス感染症	241	221	231	243	8	67	462	474	75	1,011
咽頭結膜熱	174	271	105	390	11	38	445	495	49	989
A群溶連菌咽頭炎	771	433	201	301	16	65	1,204	502	81	1,787
感染症胃腸炎	1,563	2,582	1,325	1,861	179	231	4,145	3,186	410	7,741
水痘	449	365	210	177	31	47	814	387	78	1,279
手足口病	66	159	102	84	1	15	225	186	16	427
伝染性紅斑	43	44	32	6	0	0	87	38	0	125
突発性発しん	237	142	149	65	22	9	379	214	31	624
百日咳	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2
ヘルパンギーナ	338	374	297	207	36	21	712	504	57	1,273
流行性耳下腺炎	67	65	49	34	7	3	132	83	10	225
計	3,950	4,657	2,701	3,368	311	496	8,607	6,069	807	15,483
急性出血性結膜炎	2	0	0	0	0	0	2	0	0	2
流行性角結膜炎	38	100	63	33	0	20	138	96	20	254
計	40	100	63	33	0	20	140	96	20	256
細菌性髄膜炎	1	7	0	0	0	0	8	0	0	8
無菌性髄膜炎	0	7	0	0	0	0	7	0	0	7
マイコプラズマ肺炎	0	4	0	1	7	0	4	1	7	12
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	18	0	10	7	0	19	10	7	36
計	2	36	0	11	14	0	38	11	14	63
性器クラミジア感染症	20	14	22	26	0	0	34	48	0	82
性器ヘルペスウイルス感染症	9	3	10	16	0	0	12	26	0	38
尖圭コンジローマ	10	12	3	10	0	0	22	13	0	35
淋菌感染症	9	26	11	7	0	0	35	18	0	53
計	48	55	46	59	0	0	103	105	0	208
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124	133	42	52	1	0	257	94	1	352
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	74	20	52	1	0	79	72	1	152
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	9	0	0	0	0	9	0	0	9
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	129	216	62	104	2	0	345	166	2	513

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	369.64	291.13	219.73	363.55	199.50	233.33	323.11	291.64	219.80	300.72
RSウイルス感染症	34.43	22.10	33.00	34.71	8.00	33.50	27.18	33.86	25.00	29.74
咽頭結膜熱	24.86	27.10	15.00	55.71	11.00	19.00	26.18	35.36	16.33	29.09
A群溶連菌咽頭炎	110.14	43.30	28.71	43.00	16.00	32.50	70.82	35.86	27.00	52.56
感染症胃腸炎	223.29	258.20	189.29	265.86	179.00	115.50	243.82	227.57	136.67	227.68
水痘	64.14	36.50	30.00	25.29	31.00	23.50	47.88	27.64	26.00	37.62
手足口病	9.43	15.90	14.57	12.00	1.00	7.50	13.24	13.29	5.33	12.56
伝染性紅斑	6.14	4.40	4.57	0.86	0.00	0.00	5.12	2.71	0.00	3.68
突発性発しん	33.86	14.20	21.29	9.29	22.00	4.50	22.29	15.29	10.33	18.35
百日咳	0.14	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.06
ヘルパンギーナ	48.29	37.40	42.43	29.57	36.00	10.50	41.88	36.00	19.00	37.44
流行性耳下腺炎	9.57	6.50	7.00	4.86	7.00	1.50	7.76	5.93	3.33	6.62
計	564.29	465.70	385.86	481.14	311.00	248.00	506.29	433.50	269.00	455.38
急性出血性結膜炎	2.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.22
流行性角結膜炎	38.00	33.33	31.50	16.50	0.00	20.00	34.50	24.00	20.00	28.22
計	40.00	33.33	31.50	16.50	0.00	20.00	35.00	24.00	20.00	28.44
細菌性髄膜炎	1.00	3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	2.67	0.00	0.00	1.33
無菌性髄膜炎	0.00	3.50	0.00	0.00	0.00	0.00	2.33	0.00	0.00	1.17
マイコプラズマ肺炎	0.00	2.00	0.00	1.00	7.00	0.00	1.33	0.50	7.00	2.00
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.00	9.00	0.00	10.00	7.00	0.00	6.33	5.00	7.00	6.00
計	2.00	18.00	0.00	11.00	14.00	0.00	12.67	5.50	14.00	10.50
性器クラミジア感染症	6.67	7.00	11.00	13.00	0.00	0.00	6.80	12.00	0.00	9.11
性器ヘルペスウイルス感染症	3.00	1.50	5.00	8.00	0.00	0.00	2.40	6.50	0.00	4.22
尖圭コンジローマ	3.33	6.00	1.50	5.00	0.00	0.00	4.40	3.25	0.00	3.89
淋菌感染症	3.00	13.00	5.50	3.50	0.00	0.00	7.00	4.50	0.00	5.89
計	16.00	27.50	23.00	29.50	0.00	0.00	20.60	26.25	0.00	23.11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	124.00	66.50	42.00	52.00	1.00	0.00	85.67	47.00	1.00	58.67
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5.00	37.00	20.00	52.00	1.00	0.00	26.33	36.00	1.00	25.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	4.50	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00	1.50
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計	129.00	108.00	62.00	104.00	2.00	0.00	115.00	83.00	2.00	85.50